

令和7年度（令和6年度事業対象）

美 浜 町 教 育 委 員 会

自己点検・評価報告書

美 浜 町 教 育 委 員 会

令 和 7 年 9 月

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抜粋）

（設置）

第2条 都道府県、市（特別区を含む。以下同じ。）町村及び第二十一条に規定する事務の全部又は一部を処理する地方公共団体の組合に教育委員会を置く。

（組織）

第3条 教育委員会は、教育長及び四人の委員をもつて組織する。ただし、条例で定めるところにより、都道府県若しくは市又は地方公共団体の組合のうち都道府県若しくは市が加入するものの教育委員会にあっては教育長及び五人以上の委員、町村又は地方公共団体の組合のうち町村のみが加入するものの教育委員会にあっては教育長及び二人以上の委員をもつて組織することができる。

（教育委員会の職務権限）

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- 1 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- 2 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- 3 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 4 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- 5 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- 6 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- 7 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
- 8 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- 9 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- 10 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。
- 13 スポーツに関すること。
- 14 文化財の保護に関すること。
- 15 ユネスコ活動に関すること。
- 16 教育に関する法人に関すること。
- 17 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- 18 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。
- 19 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 教育委員会の点検・評価について	2
2 美浜町教育大綱	3～6
3 美浜町教育振興計画.....	7～8
4 令和6年度教育委員会の活動状況.....	9～14
5 令和7年度（令和6年度事業対象）自己点検・評価	15～36
（「美浜町教育委員会の自己点検・評価シート」）	

はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、美浜町教育委員会が行った令和6年度の教育行政事務の管理及び執行の状況について自己点検・評価をまとめ、議会に提出するとともに公表するものです。

教育委員会では、今回の自己点検・評価を踏まえ、さらに効果的な教育行政が展開できるよう努めてまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和7年9月

美 浜 町 教 育 委 員 会

教育長	加 藤 浩
教育長職務代理者	柴 田 利 郎
委 員	兵 庫 千鶴子
委 員	高 木 和 彦
委 員	渡 邊 悦 子

1 教育委員会の点検・評価について

(1) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動、教育委員会が管理執行する事務、教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務の3区分とし、本年度は、令和6年度に実施した事業について点検・評価を実施しました。

(2) 点検・評価の構成

① 教育委員会の活動

教育委員会の運営改善や会議の公開・保護者や地域住民への情報発信等5項目について、点検・評価を行いました。

② 教育委員会が管理・執行する事務

教育行政の基本方針を定めること等の点検・評価を行いました。

③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

美浜町教育大綱と第五次美浜町総合振興計画に基づく美浜町教育振興計画に掲げた各施策について、点検・評価を行いました。

(3) 点検・評価方法

点検・評価にあたっては、まず事務事業の成果と課題を総括するとともに、内部評価を行いました。次に点検・評価を客観的に行うため、次の学識経験者に外部評価をお願いいたしました。

外部評価者 久 寄 純 子 氏

森 本 克 行 氏

なお、判定方法は4段階で、次のとおりです。

評価	評価基準
A	十分な成果がみられた
B	おおむね成果がみられた
C	成果がみられなかった
D	評価対象外（未着手）

※実施時期未到来はD評価（未着手）で、評価対象外

美浜町教育大綱

1. 教育大綱の基本理念

地域を愛し 自らを高め 夢を実現する ひとづくり

「この町で子どもを育てて良かった」、「この町の学校で学べて良かった」、「この町に住んで良かった」と実感できるまちづくりを進めていくために、生涯にわたって学ぶ環境を整え、豊かな人間性と社会性、地域への愛と誇りを育み、自分の夢や希望に向かって自らの可能性を伸ばしていくことができる「ひとづくり」を目指して教育を推進します。

2. 基本目標

I 生涯学習の推進 ～共に学び合う学習環境づくり～

全ての町民が充実した生涯を送り愛があふれ住むことが誇れるまちをつくるために、生涯にわたって学べる機会やその成果を活かせる環境づくりを推進します。

II 学校教育の充実 ～個性を伸ばし夢を育てる教育～

特色ある教育を推進し、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育みます。

Ⅲ 社会教育の充実 ～地域コミュニティ及び町民の自主活動の推進～

町民が主体的に地域を学び、地域課題の解決に向け協力し行動できるひとづくりや環境づくりを進め、地域力を高める取組を推進します。

Ⅳ 生涯スポーツの推進 ～誰もが親しめるスポーツの推進及び健康・体力の増進～

誰もが、いつでも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツを推進し、町民の健康と体力増進を図ります。

Ⅴ 町民文化の創造 ～なびあすを拠点とした芸術文化の推進～

芸術や音楽、多彩な文化芸能に触れる機会を提供し、幅広い世代の町民が参加し楽しめる文化活動の活性化を目指します。

Ⅵ 歴史文化の伝承 ～歴史を学び、活かすふるさとづくり～

郷土の誇りとなる伝統文化や歴史資源の魅力を発信するとともに、町民が、学び、育み、次の時代へ大切に継承していく環境づくりを目指します。

Ⅶ 人権尊重への取り組み ～互いの人権が尊重される町の実現～

子どもから大人まで、あらゆる場を通じて人権について正しく理解し考える機会を提供し、一人ひとりの人権を尊重し認めあうことのできる人づくりを目指します。

3. 重点施策

I 生涯学習の推進

- (1) 各世代のニーズに合った学習機会の充実
- (2) 生涯学習推進の核となる人材の育成
- (3) 多様な媒体を活用した生涯学習情報の提供

II 学校教育の充実

- (1) 学力・体力の向上と豊かな心の育成
- (2) I C Tを活用した教育環境の充実・強化
- (3) 生活リズムの向上といじめ・不登校対策
- (4) エネルギー環境教育の充実
- (5) 地域愛学習の推進

III 社会教育の充実

- (1) 公民館を活用した地域コミュニティの推進
- (2) 魅力ある図書館づくりの推進
- (3) 教育と福祉が連携した切れ目のない子育て支援の充実
- (4) 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

Ⅳ 生涯スポーツの推進

- (1) スポーツを通じた町民の健康・体力の増進
- (2) スポーツ施設の適切な管理と利用促進
- (3) 各種スポーツ団体の組織強化

Ⅴ 町民文化の創造

- (1) 若者から高齢者まで幅広い世代が参加できる事業の推進
- (2) 町民による芸術文化活動の活性化
- (3) 子どもの文化事業の推進

Ⅵ 歴史文化の伝承

- (1) 郷土の歴史・文化・景観の保全と継承
- (2) 重要遺跡や歴史資料の調査研究
- (3) 多様な媒体を活用した郷土の情報発信

Ⅶ 人権尊重への取り組み

- (1) 生涯を通じた人権教育
- (2) 啓発活動による人権意識の向上

美浜町教育振興基本計画（令和３年度～令和７年度）

美浜町では、令和３年３月に“地域を愛し 自らを高め 夢を実現する ひとづくり”という基本理念のもと、今後５年間に講ずべき教育施策を示した『美浜町教育大綱』を改定しました。

この大綱の理念を具現化し実効性のあるものとするため『美浜町教育振興基本計画』を定め、以下の重点施策を積極的に推進することにより美浜町の教育の振興を図ります。

また、町では、国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）について、県の「ふくいSDGsパートナー」として登録しテーマに沿った取り組みを実施しております。教育委員会においてもSDGsの実現を目指す活動を推進していきます。

基本目標	重点施策
1 生涯学習の推進	① 学習機会の充実
	② 学習施設の整備及び管理運営
	③ 学習情報の充実
	④ 人材の育成
	⑤ 推進体制の整備
2 学校教育の充実	① 学校教育環境の整備・充実
	② 学力・体力の向上と特色ある教育の推進
	③ 児童・生徒の心身の健全育成
	④ 地域とともにある学校づくり
	⑤ 保小中連携の推進
	⑥ エネルギー環境教育の充実
3 社会教育の充実	① 地域コミュニティの推進
	② 図書館活動の充実
	③ 青少年健全育成の推進
	④ 社会教育活動への参加促進

基本目標	重点施策
4 生涯スポーツの推進	① スポーツ機会の充実
	② スポーツ施設の充実・活用
	③ 推進体制の強化
	④ スポーツ交流の促進
	⑤ 国体レガシーを活かしたスポーツの推進
5 町民文化の創造	① 芸術・文化の機会提供及び推進
	② 文化活動への町民参画の推進
	③ 地域文化への支援
	④ 文化施設の活用
	⑤ 文化交流の推進
6 歴史文化の伝承	① 歴史文化の掘り起こしと調査
	② 歴史文化の保存と継承
	③ 文化財の活用と情報発信
7 人権尊重への取り組み	① 人権学習・啓発の推進
	② 人権擁護の取り組み
	③ 人権が尊重される社会の実現

令和 6 年度教育委員会の活動状況

【教育委員会】 1 3 回開催

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 4 回	4 月 24 日	議案第 17 号	令和 6 年度美浜町給食センター運営委員会委員の委嘱について
		議案第 18 号	美浜町文化財保護委員会委員の委嘱について
		議案第 19 号	美浜町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について
		連絡・報告事項	令和 6 年度教育委員会事務局の体制等について
			第 3 6 回美浜・五木ひろしふるさとマラソンについて
			各小・中学校の年間行事について
			令和 6 年度福井県市町教育委員会連絡協議会総会および研修会の開催について
第 5 回	5 月 29 日	令和 6 年度学校訪問日の決定について	
		議案第 20 号	令和 6 年度美浜町生涯学習推進委員（社会教育委員・公民館運営審議会委員を兼ねる）の委嘱について
		議案第 21 号	美浜町立図書館協議会委員の任命について
		連絡・報告事項	第 3 6 回美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会について
			令和 6 年度「姉妹都市（台湾新北市石門区）ホームステイ事業」について
第 6 回	6 月 26 日	「国吉城まつり 2 0 2 4」の開催成果について	
		議案第 22 号	令和 6 年度歴史文化館運営委員会委員の委嘱について
		連絡・報告事項	令和 6 年度興道寺廃寺保存活用事業について
			文化財（名勝三方五湖・埋蔵文化財）に係る申請義務の周知について
			日本遺産【北前船寄港地・船主集落】への認定について
			令和 6 年度（令和 5 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
			令和 6 年度 6 月補正の主な関係予算について
		美浜町東地区プール等の一般開放について	

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 7 回	7 月 24 日	議案第 23 号	令和 7 年度使用中学校教科用図書の採択について
		議案第 24 号	令和 6 年度（令和 5 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
		連絡・報告事項	なびあすアートフェスタ 2024 について
			第 29 回美浜町子ども会ミニバレーボール大会の結果及び今年度の事業計画について
			全国高等学校総合体育大会等参加選手について
			令和 6 年度中学校夏季総合競技大会等の結果について
			夏季休業中における学校閉庁について
			令和 6 年度全国中学校体育大会について
			令和 6 年度後期学校訪問日について
第 8 回	8 月 28 日	連絡・報告事項	令和 6 年度（令和 5 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
			美浜町教育委員等の任命について
			令和 6 年度 9 月補正の主な関係予算について
			なびあすキッズデーの報告について
			美浜美術作家展の報告について
			北西郷公民館の防災キャンプの報告について
第 9 回	9 月 25 日	協議事項	教育委員の職務分担について
		連絡・報告事項	美浜町教育委員の任命について
			学校アウトリーチについて
			令和 6 年度若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会について

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 10 回	9 月 30 日	議案第 25 号	教育長職務代理者の選任について
		議案第 26 号	教育委員の職務分担について
		議案第 27 号	美浜町生涯学習センターなびあす休館日の設定・変更について
		議案第 28 号	美浜町立図書館休館日の変更について
		議案第 29 号	美浜町公民館の休館日の変更について
		議案第 30 号	若狭国吉城歴史資料館の休館日の設定・変更について
		議案第 31 号	美浜町歴史文化館の休館日の設定・変更について
		連絡・報告事項	令和 6 年度若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会について
第 11 回	10 月 30 日	議案第 32 号	若狭国吉城歴史資料館の開館時間の延長及び入館料の減免について
		連絡・報告事項	20 歳のつどいの開催について
			第 35 回美浜美術展の審査結果及び開催について
			各種スポーツ大会の結果について
			福井大学嶺南教育プログラムについて
第 12 回	11 月 27 日	議案第 33 号	美浜町総合運動公園休館日の変更について
		議案第 34 号	美浜町西郷健康ひろば休館日の変更について
		議案第 35 号	美浜町高等学校等生徒通学費助成金交付要綱の一部を改正する要綱の制定について
		連絡・報告事項	なびあすアートフェスタ 2024 の開催報告について
			令和 6 年度 12 月補正の主な関係予算について
第 13 回	12 月 25 日	連絡・報告事項	令和 7 年度当初予算に係る政策案等について
			第 37 回美浜・五木ひろしふるさとマラソンについて
			第 20 回全国中学校選抜ローイング大会について
			ふるさと美浜元気フォーラムの実施について
			姉妹都市（台湾新北市石門区）ホームステイ受入事業について

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 1 回	1 月 29 日	連絡・報告事項	美浜町立図書館休館日の報告について
			各小・中学校卒業式・入学式について
			美浜中学校開校 5 0 周年記念事業について
			令和 7 年度放課後児童クラブ申込みにおける保護者の年齢要件の緩和について
			令和 6 年度 第 5 8 回美浜町子ども会かるた大会結果について
			教育委員会（生涯学習行政推進母体）の開催について
			部活動地域移行に係るアンケート調査の実施について
第 2 回	2 月 26 日	議案第 1 号	就学すべき学校指定変更について
		連絡・報告事項	興道寺廃寺保存活用事業について
			令和 7 年度当初予算の主な関係予算について
			美浜町教職員離着任式について
第 3 回	3 月 26 日	議案第 2 号	美浜町「輝く未来へ」新入学等応援事業（給付金支給）実施要綱の制定について
		議案第 3 号	美浜町「輝く未来へ」新入学等応援事業（制服等支給）実施要綱の制定について
		議案第 4 号	美浜町放課後児童クラブ条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
		議案第 5 号	全国で輝く美浜人応援事業補助金交付要綱の制定について
		議案第 6 号	未来のアスリート応援事業補助金交付要綱の制定について
		連絡・報告事項	教育委員会に属する職員の処分について
			令和 7 年度教職員人事異動について
			令和 7 年度美浜町職員人事異動について
			令和 7 年度美浜町会計年度任用職員について
			小・中学校入学式について
			第 3 7 回美浜・五木ひろしふるさとマラソンについて

【総合教育会議】 1回

区分	開催日	協 議 ・ 調 整 事 項
第 1 回	7 月 18 日	各学校の状況とスクールプランについて
		こどものあそび場について
		こども計画について
		みはまシナプスプロジェクトについて
		シナプス先輩大学について

【学校訪問】

教育委員会学校訪問

6 月 1 8 日 美浜東小学校授業参観	1 0 月 2 2 日 美浜中学校授業参観
6 月 1 9 日 美浜西小学校授業参観	1 0 月 2 9 日 美浜西小学校授業参観
6 月 2 5 日 美浜中央小学校授業参観	1 1 月 2 0 日 美浜中央小学校授業参観
6 月 2 7 日 美浜中学校授業参観	1 1 月 2 7 日 美浜東小学校授業参観
	1 月 2 9 日 美浜中学校授業参観（特別支援教育）
	1 月 3 1 日 美浜西小学校授業参観（特別支援教育）

※各委員が個別に授業参観で学校を訪問しています。

【教育関連施設訪問】 1回

月 日	時間	施 設 名 等
11 月 27 日	15 : 30～	山東公民館菅浜分館 美浜町放課後児童クラブの現状と課題について

【教育委員研修】

月日	場所	研 修 名 等
5 月 24 日	鯖江市	福井県市町教育委員会連絡協議会研修会 『おしよりん』で伝えたかったこと
10 月 31 日	おおい町	若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会 テーマ 嶺南教育事務所の事業概要 おおい町の教育について 視察 暦会館特別展～陰陽師とは何者か 等

美浜町教育委員会の自己点検・評価シート

教育委員会はその権限に属する事務の管理・執行状況等の点検・評価を行い、教育委員会の活動を一層活性化することにより、学校教育・社会教育の充実を図り、生涯学習のまちづくりに資することを目指して自己点検・評価を進める。

大項目	中項目	小項目	点検・評価	R5			R6			No.
				自己 評価	外部 評価		自己 評価	外部 評価		
1 教育委員会の活動	(1)教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	予定した定例会(12回)全てを開催。	A	A	A	A	A	A	1
		②教育委員会会議の運営上の工夫	委員全員が出席できるように日程の調整を図った。 会議開催時に合わせ現地視察を実施。	A	A	A	A	A	A	2
	(2)教育委員会の会議の公開、保護者住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	会議の開催の公表はしているが、傍聴者はなかった。	D	D	D	D	D	D	3
		②議事録の公開・広報・公聴活動の状況	会議の日程、審議された議案名をHPで公開。	B	B	B	B	B	B	4
	(3)教育委員会と事務局の連携	教育委員会と事務局の連携	事務局員 7人出席。案件によっては担当課から説明を求めるため出席を依頼。	B	B	B	B	B	B	5
	(4)教育委員会の自己研鑽	研修会への参加状況	福井県市町教育委員会連絡協議会、若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会へ参加。	B	B	B	B	B	B	6
	(5)学校及び教育施設に対する支援・条件整備	①学校訪問	研究授業等での学校訪問を実施。 6/27美浜中、6/19西小、6/25中央小、6/18東小、10/22美浜中、10/29西小、11/20中央小、11/27東小に各教育委員が出席。	A	A	A	A	A	A	7
		②所管施設訪問	11/27 東児童クラブ(山東公民館菅浜分館)	B	B	B	B	B	B	8

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	中項目	小項目	点検・評価	R5			R6			No.
				自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1)教育行政の運営に関する基本方針を定めること		・美浜町教育大綱(令和3年度～)及び美浜町教育振興計画(令和3年度～)に基づき、教育行政の業務方針等の協議を実施。 ・総合教育会議(町長主宰)を開催し、スクールプランや町の取り組み等について情報共有し、教育行政の推進に努めた。	B	B	B	B	B	B	9
	(2)教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること		・美浜町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定 ・美浜町高等学校等生徒通学費助成金交付要綱の一部を改正する要綱の制定 ・美浜町「輝く未来へ」新入学等応援事象(給付金支給)実施要綱の制定 ・美浜町「輝く未来へ」新入学等応援事業(制服等支給)実施要綱の制定 ・美浜町放課後児童クラブ条例施行規則の一部を改正する規則の制定 ・全国で輝く美浜人応援事業補助金交付要綱の制定 ・未来のアスリート応援事業補助金交付要綱の制定	B	B	B	B	B	B	10
	(3)教育予算その他議会議決を経るべき議案の原案を決定すること		当初予算及び補正予算等の審議と議決	B	B	B	B	B	B	11
	(4)教育委員会の所管に属する学校その他教育機関を設置し、又は廃止すること		評価案件なし	D	D	D	D	D	D	12
	(5)教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関すること		・美浜町給食センター運営委員会委員の委嘱 ・美浜町文化財保護委員会委員の委嘱 ・美浜町立図書館協議会委員の任命 ・美浜町生涯学習推進委員(社会教育委員・公民館運営審議会委員を兼ねる)、美浜町給食センター運営委員会委員の委嘱等 ・歴史文化館運営委員会委員の委嘱	B	B	B	B	B	B	13
	(6)教科用図書の採択等の決定に関すること		・令和7年度使用中学校教科用図書の採択の承認 ・令和7年度福井県義務教育諸学校教科用図書採択嶺南地区協議会の設置の承認	B	B	B	B	B	B	14
	(7)通学区域を設定し、又は変更すること		評価案件なし	D	D	D	D	D	D	15
	(8)文化財指定し、又は指定を解除すること		評価案件なし	D	D	D	D	D	D	16
	(9)請願、陳情、訴訟及び異議の申し立てに関すること		評価案件なし	D	D	D	D	D	D	17

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No		
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価			
3	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	生涯学習の推進	○各世代のニーズに合わせた講座等の開催(1-1-4、1-1-5) 青少年、成人、高齢者など、それぞれのニーズに合わせた学習機会の充実及び知識、教養に関する学習活動の推進を図る。 ①はあとふる学園 60歳以上の高齢者が健康で豊かな人生を送り、仲間の輪を広げながら楽しく学ぶ講演会等のカリキュラム。 ②浜さん講座 生涯学習まちづくり出前講座として、町職員等が学校や地域等に出向き、各分野について講義を実施。 ③なびあす講座 趣味、教養、健康、学習等の観点から、町内外の各分野で活躍されている講師を招き講座を実施。 ④なびあす学びの森 年中～高校生までの子どもを対象とした様々な文化体験ができる親子のワークショップを実施 ⑤シナプス先輩大学 美浜町出身または美浜にゆかりのある方を講師に招き、主に中高生を対象に、講師のこれまでの奮闘や実績、活躍等を講義してもらうことで、将来の選択肢や可能性を高める。また、外からみた「美浜の良さ」を知ってもらうことで、地域愛の醸成を図る。 ○芸術・文化活動の推進(1-1-6) 美浜町文化協会、なびあすコーラスライン、なびあす子ども合唱団などの活動を支援することで、幅広い年齢層の芸術・文化活動への意識醸成を図る。	○各世代のニーズに合わせた講座等の開催 各世代のニーズに合わせた講座等を、以下のとおり実施。 ①はあとふる学園 ・町民主体の企画委員が計画 ・6月～2月にかけて講座9回、館外研修1回、全10回 ・総参加人数 R6:81人(R5:71人) ※前年度比114%、前々年度比188% ②浜さん講座 ・計7回実施(図書館4件、上下水道3件) ・総参加人数 R6:186人(平成17年度開始時から延べ回数362回)(R5:214人、計7講座) ③なびあす講座 ・前期7講座、後期7講座(各講座全3回で構成されている) ・総参加人数 R6:138人(R5:15講座、総参加人数114人) ※前年度比121% ④なびあす学びの森 ・10ワークショップを実施 なびとしよ島…本と文化体験を楽しめる島 アート島……アートとなびあすの施設体験を楽しめる島 ふるさと宝島…ふるさと美浜のお宝をたくさん発見できる島 音の島……音楽体験を楽しめる島 サイエンス島…科学を体験できる島 ネイチャー島…自然を体験できる島 ・総参加人数 親子75組 R6:190人 内訳 子ども101人／大人89人(R5:199人 内訳 子ども108人／大人91人) ⑤シナプス先輩大学 ・第1回「あなたは絶対的○×△」(9/23) 講師:高木直也氏(新庄出身) 参加人数:85人(うち学生24人) 内容:可能性に満ちた中高生へ、「主人公」になるためのヒントについて講義 参加者感想抜粋:大きくダイナミックに人生を歩んでこられたのを感動しながら聞かせていただいた。 ・第2回「福井県から世界で活躍する」(1/25) 講師:角森脩平氏(佐田出身) 参加人数:235人(うち学生68人) 内容:「思考は現実化する」「可愛がられる法則」について、自身の経験を交えながら講義 参加者感想抜粋:思考と行動を結ぶ訓練。可愛がられる、素直、頑張ること、報告すること、いい勉強になった。 ・第3回「芸能界から見ると人生の選択とマネジメント」(2/23) 講師:寺川進氏(早瀬出身) 参加人数:70名(うち学生5人) 内容:「進路の選択」「セルフマネジメント」について、自身の経験を交えながら講義 参加者感想抜粋:身近にいた人物がその人の見た外の景色をその人の感性と言葉で語ってくれる。とても嬉しく楽しく素敵な時間であった。 ○芸術・文化活動の推進 ・美浜町文化協会の活動 美浜町文化協会展、福井県市町文協選抜美術展、福井県市町文協選抜芸能祭、なびあすアートフェスタ2024への参加活動を支援。 ・なびあすコーラスライン活動の支援 なびあすコーラスライン交流演奏会や合同練習会、ふるさと合唱コンクール in みはまの開催による町内外の9つの合唱団体との交流を実施。 ・なびあす子ども合唱団の活動 月2回のレッスンを実施し、日ごろの成果を発表する場として、なびあすや美浜駅、集落などでステージ披露する機会を提供。	○各世代のニーズに合わせた講座等の開催 年少から高齢者までの多くの受講がされたが、受講者の重複が多く、それぞれに新規受講者の開拓が必要である。 ①はあとふる学園 ・企画委員会(受講生で構成)を増員することができた。(1名増)。 ・受講生のアンケート結果を反映した体験型の内容も多く取り入れ開催するとともに、企画参加型としての側面を持つ講座を構築した。その結果、受講生が友人を誘い、仲間を増やすというプラスのサイクルが生まれた。 ②浜さん講座 ・講師の説明がわかりやすかったとの感想があり、好評であった。 ・各担当課の対応も良かったが、開催実績は前年度と同程度であった。 ・毎年度、学校からの申込みのみであり、地域や団体等からの依頼がないため、新規受講団体等の開拓が必要であり、講座メニューの見直しや周知方法の検討が必要。 ③なびあす講座 ・従来は募集人数が6～10名であったが、全講座の募集人数を10名に変更。 ・参加希望者を増加させるための工夫として、講座内容や講師など、町民ニーズを捉えられるよう多岐にわたる内容とした。 ・従来はチラシに記載が無かった申込開始日を明記することで、参加意欲を喚起するような工夫をするとともに、チラシやなびあす通信(開催レポートの記載を含む)などを活用し、周知にも注力した。 ④なびあす学びの森 ・参加者は楽しみながら新しい知識を得ることができた。 ・親子で参加するワークショップは保護者にも好評で、親子で過ごす時間の思い出となっていた。 ⑤シナプス先輩大学 ・R6年度新規事業 ・計3回の講座を開講し、各界で活躍している美浜町出身の方からそれぞれ貴重なお話を聞くことができ、来場者も興味深い様子で聴講していた。 ○芸術・文化活動の推進 ・なびあすアートフェスタ2024をはじめ、美浜町文化協会の活動を発表する場を提供し、日ごろの成果を披露してもらうことで、所属団体の意識醸成を図り、多くの参加に繋げることができた。 ・町内3つの合唱団体が合同で活動するなびあすコーラスラインは、主として高齢者で構成されているが、ふるさと合唱コンクールや交流演奏会などを通して、町内外の合唱団との交流を行うなど、幅広く活発な活動を行うことができた。 ・なびあす子ども合唱団は、保育園児から中学生までの団員が活動しており、レッスンやステージ発表を通じて芸術・文化活動への意識を高めるとともに、異年齢交流によるコミュニケーション能力の育成にも繋がった。	B	B	B	A	A	A	18

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		学習施設の整備及び管理運営	1、 2 									

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		人材の育成	1、4 ○学習者数の拡大及び参加促進(1-4-1) 町民の学習意欲を促進し、様々な活動に活かせるような各種講座等の学習プログラムの企画立案する。 ○ボランティアの発掘、育成及び活動参加の推進(1-4-4、1-4-6) 有償ボランティアのなびあすサポーターや葉Libとして、なびあす公演時のイベントスタッフ、図書館運営補助スタッフとして活動する人材の発掘及び育成に努める。	○学習者数の拡大及び参加促進 ・前年度各種講座等実施時のアンケート調査結果をもとに、なびあす講座やなびあす学びの森等を企画、実施 ・学習者が求める企画として、はあとふる学園の講座では、受講生からリクエストのあった健康系、懐かしい唱歌、ミュージックケア等を盛り込んだ内容を実施。 ・なびあす講座では、従来はやっていなかったヨガや健康体操など、町民ニーズがあるものを取り入れ、文化施設発信の講座という概念を払拭する内容も組み込んだ。 ・なびあす学びの森の参加者アンケートでは、初めての参加35%、2～4回36%、5回以上29%と学習機会を提供しながらリピーターも獲得しており、さらに「大変良かった86%」「良かった14%」と高評価を得た。 ○ボランティアの発掘、育成及び活動参加の推進 ・なびあすサポーター なびあす公演(13回)、漫才のDENDOなどのイベントスタッフとして活動する環境をつくり、ボランティア活動を推進。 登録者数21人(町内15人、町外6人) ※内新規登録者数1人 活動日数28日間 参加者数79人 ・葉Lib 図書館の運営補助スタッフとして各種作業を依頼し、図書館活動に参加してもらうことで、図書館と地域とのつながりを創出。年1回部員募集チラシを配布することで、新規部員の確保に努めている。 部員9人 清掃、図書返本作業(毎週日曜日/1人) イベント補助(なびとしよ島、キッズデー、読み聞かせ会) 移動図書館補助(読み聞かせ) 蔵書点検補助	○学習者数の拡大及び参加促進 ・はあとふる学園の受講生には、地域団体で活躍している方が多く、受講後、地域高齢者サロン等での活動に活かすという成果に繋がった。特に、健康福祉系の体操や音楽系の大きな字の唱歌等の歌詞集を再移用した活動など。このことから、はあとふる学園受講生数より多くの高齢者への学習の場の提供へ寄与出来た。 ・なびあす講座の受講者アンケートにより、調理系や美文字、防災の講座などを受講後、各地域での活動(地域食堂など)に活かすという成果に繋がった。 ・なびあす講座にヨガや健康体操等を取入れたことで、スポーツを通した健康志向の方の参加を促進することができた。 ・なびあす学びの森では、初めての参加を促進しながら、リピーターも獲得していることから、参加者の求める企画が開催できたといえる。それにより、学習者数の拡大を図れた。 ○ボランティアの発掘、育成及び活動参加の推進 ・なびあすサポーターは、公演接遇講習を受講しているため、スキルが高く、来場者からも丁寧な対応であると高い評価を得ている。 ・なびあすサポーターには、公演ごとに様々な役割を担ってもらっているが、得意不得意が見られるため、どの配置でも対応できるよう育成が必要である。 ・図書館サポーターとして各作業毎に参加者を募り、図書館事業へ参加してもらうことで、図書館のスムーズな運営に繋がった。 ・葉Lib部員によって同じ時間でも作業量に違いがでるため、適材適所な配置を行い、効率的に業務に取り組むことができた。	B	B	B	A	A	A	21
		推進体制の整備	1、5 ○生涯学習推進体制の整備(1-5-1) 住民組織である「生涯学習推進委員会」を運営し、庁内に設置の「生涯学習推進本部」や「生涯学習推進連絡会」を機能させることで、実働的かつ実効性を確保し、生涯学習の総合的な推進を図る。 ○生涯学習推進団体との連携(1-5-2) なびあすアートフェスタ運営委員会をはじめ、美浜の学び楽しみ隊やはあとふる学園企画委員会、人権尊重啓発協議会と連携を図り、生涯学習の推進を図る。	○生涯学習推進体制の整備 ・生涯学習推進委員会開催(年3回) 生涯学習推進体制の見直しと今後の取組み活動について検討 ・生涯学習推進連絡会の体制を見直し、主要な関係課と連絡会を開催し、各事業内容について情報共有を図った。 ○生涯学習推進団体との連携 ・なびあすアートフェスタ運営委員会 生涯学習推進委員会や文化協会、人権教育研究会、美浜の学び楽しみ隊、ArtFoxの代表者で構成し、なびあすアートフェスタ2024の企画・運営を行った。 運営委員会3回開催 (なびあすアートフェスタ2024 10/27～11/10) 伝統芸能(和太鼓イベント)、文化交流祭(展示・ステージ・体験)等 ・美浜の学び楽しみ隊 町内の様々な良いところを再発見し、巡り楽しむための活動を実施 会議11回開催 イベント2回開催(バードウォッチング・サイクリング) 蛭マップ作成、なびあす花壇の植替え等 ・はあとふる学園企画委員会 受講生が健康で心豊かな生活を送り、より多くの知識を楽しく身に付けてもらえるよう、はあとふる学園の講座を企画。 企画委員会4回開催。 ・人権尊重啓発協議会 教育委員会事務局員が各部会に所属し、連携して事業を実施。	○生涯学習推進体制の整備 ・令和6年3月に提言書「地域活性化のための人材育成について」を町長に提言後、生涯学習推進委員会において、教育委員会との意見交換や生涯学習推進連絡会体制の見直し等について検討し、中断していた生涯学習推進連絡会を小規模な体制で活動させることができた。 ・今後は、生涯学習推進本部の再編成について検討し、庁内の生涯学習に係る事業の整理や情報共有を行う必要がある。 ○生涯学習推進団体との連携 ・なびあすアートフェスタ2024の開催により、町内で活動している文化団体の活動の成果を披露する場を提供することができ、多くの来場者に楽しんでいただいた。 ・なびあすからJR美浜駅までのエリアを、にぎわいゾーンとして位置づけ、「なびあすアートフェスタ2024」、「はまなびフェスタ2024・鯖サミットin美浜2024」、「みはまナブスプロジェクト」(総称:「美浜つながるフェスタ」)を連携開催することで、生涯学習の推進及び地域の活性化を図ることができた。 ・美浜の学び楽しみ隊の隊員が町内で再発見した美浜の良いところとして「蛭マップ」を作成し、アートフェスタで来場者に配布するとともに、活動内容を掲示することで、多くの方に「美浜の良いところ」を知ってもらうことができた。また、「蛭マップ」を、次年度の活動企画に活かせるよう検討を進める。 ・R5年度と比較して、より多くの受講申込みがあり、受講生に美浜の良いところを再発見してもらうとともに、健康で心豊かな生活を送るための知識を学び、刺激を与えることができた。 ・人権協と教育委員会事務局が連携して活動することで、スムーズに事業を推進することができた。	B	B	B	B	B	B	22

【評価】

A・・・十分な成果がみられた B・・・おおむね成果がみられた C・・・成果がみられなかった D・・・評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	
学校教育の充実	2	2、1 学校教育環境の整備・充実	○施設維持管理(2-1-1) 学校及び関連施設の維持管理各種修繕工事	○施設維持管理 【主な工事】 ・西小学校グラウンド改修工事 ・中央小学校・東小学校遊具更新工事 ・西小学校音楽室改修工事 ・東小学校グラウンド東倉庫修繕工事 ・町内小学校空調機修繕工事 ・美浜中学校消防設備取替工事 ・美浜中学校エレベーター・空調機修繕工事	○施設維持管理 ・各学校の経年劣化等による不具合箇所について、随時修繕を実施することが出来、西小グラウンドの排水工事も年度内に完了した。 ・計画的に改修を行うための財源確保と実施計画が必要である。					23
			○スクールバス運行业務(2-1-1) 登下校バスや校外学習活動に関するバスを運行	○スクールバス運行业務 ・小学校登下校送迎バス(西・新庄・東方面) ・中学校登下校送迎バス(西・新庄・東方面) ・小学校校外活動送迎バス(61回) ・エネルギー環境教育推進事業送迎バス(12回) ・中学校部活動等送迎バス(大会及び見学等)	○スクールバス運行业務 ・通常の登下校バスや校外学習のバスなど学校のニーズに応じた運行ができた。 ・危険獣害出没时间に柔軟な対応するなど安全確保に努めた。 ・荒天時の臨時運行について検討が必要である。					
			○教材備品の整備(2-1-1) 学校の教材備品(学校図書館の本を含む)を整備	○教材備品の整備 ・各学校から要望のあった教材備品を整備 ・教材備品(可動式黒板・地図・モニター・顕微鏡 等) ・学校図書(西小:414冊、中央小:314冊、東小:345冊、美浜中:307冊)	○教材備品の整備 ・小中学校教材整備指針に基づき、各学校のニーズを踏まえた教材備品の充実を図った。 ・納入時期の調整が必要である。					
			○高等学校等通学費助成(2-1-2) 保護者の経済的負担軽減のため、高等学校等に就学する生徒の通学に要する経費の一部を助成	○高等学校等通学費助成 ・通学助成利用人数 延 252人 ・実利用人数 96人	○高等学校等通学費助成 ・保護者の経済的負担を軽減できたほか、周知や制度拡充を図ることができた。 ・北陸本線の三セク移行に伴う要綱の見直し、改正を行い、助成対象の更なる充実を図った。 ・制度の公平性に関する課題について検討を進めた。今後、継続して検討が必要である。					
			○佐竹良三郎奨学育英基金 大学生への学資貸与	○佐竹良三郎奨学育英基金 ・奨学金利用人数 3人(内新規0人) ・延利用人数 21人	○佐竹良三郎奨学育英基金 ・既存の利用者に対して引き続き支援を行い、教育費の負担軽減に寄与した。 ・制度の周知は行ったが新規利用にはつながらなかったものの、今後の利用促進に向けた検討を行った。	A	A	A	A	
			○美浜町「輝く未来へ」新入学応援事業 入学・卒業に係る保護者の経済的負担を軽減するため、町内小中学校の新入学予定者に制服を支給するとともに、中学3年生等の保護者へ応援給付金を給付	○美浜町「輝く未来へ」新入学応援事業 ○制服の支給 小学校入学予定者 54人、中学校入学予定者 53人 ○応援給付金の支給 中学3年生の保護者73人(1人7万円) 区域外に就学する児童の保護者 1人(2万円)	○美浜町「輝く未来へ」新入学応援事業 ・R6年度に始めた新たな事業であり、入学・卒業に伴う保護者の経済的負担を軽減することができた。					
			○学校ICT環境整備事業(2-1-3) 教職員の事務処理の効率化やシステム管理負担を軽減し、児童・生徒と向き合う時間を確保する。また、快適なICT環境を整備することで情報機器の効果的な活用を促進し、楽しく学べる学習環境を拡充するなど教育の質の向上を図る。	○学校ICT環境整備事業 ・児童・生徒1人1台のタブレット端末を積極的に活用した授業を実施。 ・各小中学校のタブレットにフィルタリング機能を装備した。 ・保護者向け情報発信ツール「Home & School」を運用開始。	○学校ICT環境整備事業 ・Webフィルタリングの導入により、安全な端末活用環境を整備し、持ち帰り学習の推進に向けた環境を整えた。活用の促進を図る必要がある。 ・保護者連絡機能(Home & School)の導入によって保護者への情報提供を迅速に行うことに加え、教職員の負担軽減、コスト削減(印刷)を図ることができた。					
			○学校ICT教育推進事業(2-1-3) 児童・生徒が主体的・共同的に思考・判断・表現できる新しい学びの機会を創出するため、ICT支援員を配置し、すべての教科でICTを日常的に活用することにより、学校ICT教育の推進を図る。	○学校ICT教育推進事業 ・各学校にICT支援員を配置 ・月2回学校を訪問 ・ICT機器の使用方法や支援ソフト、デジタルドリルの活用など、教職員にICT全般のサポートを行った。	○学校ICT教育推進事業 ・各学校にICT支援員を配置し、教職員へのICTサポートを充実させることで、タブレット端末の活用促進に繋がった。 ・ICT支援員の配置により教職員へのICTの支援を充実させ、端末活用の促進につながった。					
			○部活動指導員の配置(2-1-5) 教員の働き方改革の実現を図るため、中学校に部活動指導員を配置。 ○地域スポーツ指導者の配置(2-1-5) 運動部活動等に、専門的な技術指導ができる地域スポーツ指導者を配置し、生徒への技術指導の充実を図る。	○部活動指導員の配置 ・1人配置(男子卓球クラブ) ○地域スポーツ指導者の配置 ・2人配置(女子卓球部・男子ソフトテニス部) 25回/人 ※女子卓球部:全国選抜大会出場 男子ソフトテニス部: ・夏季総合競技大会 個人戦4ペア出場 ・新人競技大会団体戦 県3位に入賞	○部活動指導員の配置 部活動指導員の配置により、年間517時間分の顧問業務を軽減し、教職員の負担軽減につなげることができた。 ○地域スポーツ指導者の配置 【学校からの成果報告より】 ・地域スポーツ指導者の効果的な指導により、生徒の意欲向上と技術向上が図られ、全国大会や県大会での実績につながった。 ・部活動の地域移行に向けた検討するための体制整備が必要である。					

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No	
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価		
		2・2 学力・体力の向上と特色ある教育の推進	○ 学力調査(2-2-1) 学習指導の基礎資料とするため、学力調査を実施	○ 学力調査 ・町独自の学力調査 小学校 1・2年生 国・算(CRT標準学力調査) 3・4年生 国・算・理(CRT標準学力調査) 中学校 1・2年生 国・数・社・理・英(2年生のみ)(4月)意識調査(ベネッセ学力調査) ・全国学力・学習状況調査(4月) 小学校 6年生 国・算 中学校 3年生 国・数 ・福井県学力調査(SASA)(12月) 小学校 5年生 国・算 ・生活や学習、学級に関する調査(質問調査) 6、11月に調査(小3～6年生 中1～3年生対象)	○ 学力調査 ・学力調査を通じて児童生徒の学力の現状を把握し、指導改善に役立てることができた。 ・県や全国との比較も可能となり、教員の指導力向上にも寄与することができた。						
			○ ふるさと美浜元気プロジェクト等の実施(2-2-3) 児童・生徒が自らの地域の課題等を改善する体験学習を実施することで、美浜で育つ子どもたちの郷土愛を育み、将来自らの意思で美浜に住むことを選択し、地域のために自分で考え行動を起こすことのできる人材を育成。	○ ふるさと美浜元気プロジェクト等の実施 ・3校各学年の共通テーマにより調査を行い、総合体育館で実践発表。 ・地域愛学習の促進 ・令和7年1月17日に美浜町生涯学習センターなびあすでフォーラムを実施。 ・小学校の3年生から6年生までが、年間の学習計画を立てて実施。課題解決のアイデアを考える体験をし、3校合同のフォーラムで提案。	○ ふるさと美浜元気プロジェクト等の実施 ・ふるさと美浜元気プロジェクトでは、児童たち自身による地域の問題提起と解決案の作成を通し、地域活動への自発的取り組みを行う人材育成を図ることが出来た。 ・6年生の町内各所で行われた探究学習については、美浜中学生、美方高校生も参加した小中高連携のオンライン会議で発表方法のアドバイスをもらったり、調査に際し社会福祉協議会と交流を持つなど、学校外での交流も盛んに行われた。 ・担任間での連携を通じて持続可能な運営方法の検討も進められた。	A	A	A	A	A	A
			○ 中学校社会体験活動の推進(2-2-3) 町内公共施設や企業等への施設見学の実施や、地域の職場において就労を体験。様々な体験を通し、夢や希望を持ち、進路選択への意欲を高める。 ○ 校外学習の実施(2-2-3) 児童・生徒が自らの地域の課題等を改善する体験学習を実施することで、ふるさと福井に誇りや愛着を持ち、新たな活力の創出を図る。	○ 中学校社会体験活動の推進 ・キャリア教育として地元企業の職場体験を実施。体験通じて地域で働く人々の仕事に対する姿勢や思いを学ぶ。 ・社会体験活動…保育園、社会福祉協議会、町内事業所等 ○ 校外学習の実施 ・校外学習での体験活動等を通じて、地域への愛着心を育む。 ・小学校…電池推進遊覧船乗船、トマト栽培、釣り体験等 ・中学校…シジミ漁体験、トレッキング等	○ 中学校社会体験活動の推進 ・地元企業での職場体験を通じて、地域社会とのつながりを実感し、キャリア形成や地元就労への意識向上を図った。 ○ 校外学習の実施 ・自然や地域文化に触れる体験を通して、子どもたちの探究心、想像力、コミュニケーション力の育成を図ることができた。実施後の感想等からも成長が確認された。						
			○ 美浜『地域愛』フィールドトリップ事業(2-2-3) 次代を担う子どもたちの地域への愛着・誇りを醸成させるため、児童生徒や教員が地域のことを知り、人とふれあい、美浜町のことを深く知ってもらうことを目的に町内の主要観光施設をめぐるフィールドトリップを実施する。 ○ 小学校英語活動推進事業(2-2-5) 小学校における英語教育の充実のため、外国人講師を小学校に配置。児童に英語への興味・関心を持たせることで、英語学習に係る中学校へのスムーズな移行を図る。	○ 美浜『地域愛』フィールドトリップ事業 ・美浜町レイクセンター電池推進遊覧船乗船 (各学校教員・西小:5年生、中央小:4・5・6年生、東小:4年生) 町内各所(美浜中:1年生) ○ 小学校英語活動推進事業 ・ALTを小学校3校に派遣(ALT2人(のべ3人)) ・英語学習に係る教員研修の実施(8/2実施) ・内容:スキットやペア相談、ICT活用の授業など、児童の英語学習の導入に役立つ方法 ・R6年度からの業者選定	○ 美浜『地域愛』フィールドトリップ事業 ・町内の施設を体験的に学ぶことで、教職員・児童生徒ともに地域の魅力を再発見し、地域への愛着と誇りを深めることができた。 ○ 小学校英語活動推進事業 ・ALTの配置により、児童が日常的に英語に触れ、外国文化への理解を深めることができた。ALTの授業支援により、英語への興味関心も高まった。						

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
児童・生徒の心身の健全育成	2、3	児童・生徒の心身の健全育成	○生活リズムの向上(2-3-1) 正しい睡眠リズムと食習慣を身につけるため、「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進し、健全な心身の育成に努める。	○生活リズムの向上 ・就学時健康診断において、規則正しい生活リズムの大切さについての保護者向け研修会を実施。 講師：寺腰 優子先生 内容：「就学に向けて 今できること」 西小(10/31)、中央小(10/23)、東小(10/30)	○生活リズムの向上 ・就学を迎える子どもたちの生活リズムや準備に関する講演を実施し、保護者が規則正しい生活の重要性を再認識する機会となった。	A	A	A	A	A	A	25
			○食育の推進 ①『親子ふれあい食育事業』(2-3-7) 町内各小中学校の1年生児童及びその保護者を対象に、給食参観や食育座談会を開き、栄養教諭が食育指導を行い、学校と家庭との食事の関わりについての情報共有を図る。 ②地元の豊かな食材を学ぶ(2-3-6) 地元の豊かな食材について学ぶ機会を学校給食で取り組み、JA美浜や町内納入業者と連携し、優先的に美浜町産の食材を取り入れる。 ③食に関する授業の開催(2-3-8) 健康福祉課の「げんげんプラスup」の一環として、町管理栄養士等と学校栄養教諭が連携し、各小中学校で食に関する授業を開催。塩分摂取、生活習慣病、おやつ摂取による影響等を考える。 ④食物アレルギー対応食の提供(2-3-5) 対象となる児童生徒に、食物アレルギー対応食を提供。また、全員が出来る限り同じ給食を食べられるように、卵の使用回数を減らしたり調味料をアレルゲンフリーにする等の対応も行っている。	○食育の推進 ①『親子ふれあい食育事業』 各小中学校 1回実施(合計 児童62人、保護者41人参加) ②地元の豊かな食材を学ぶ ・町内地場産食材の活用 JAみはま、地元納入業者等と連携し、町内地場産食材を積極的に取り入れた。(※地場産食材…白ねぎ、きゅうり、トマト、サツマイモ等) また、県主催のアイデアメニューコンテストに、町内の児童生徒46人が応募し、4人が入賞した。 ③食に関する授業の開催 ・町内小中学校の全学年で授業を実施(年1回) ・「げんげんプラスup」の取り組みについて、児童生徒に解りやすく覚えてもらうため、味覚体験を取り入れ指導した。 ④食物アレルギー対応食の提供 対象児童生徒(25人) 保護者との連絡を密にし、代替食や除去食等きめ細やかに対応。 例：アレルギー対応食…卵、乳、小麦、落花生、そば等	○食育の推進 ①『親子ふれあい食育事業』 ・各小中学校1年生の保護者を対象に、給食参観と食育座談会を行い、保護者に食育の大切さと学校給食への理解を深めてもらうことが出来た。 【参加者感想より抜粋】 ・楽しく美味しくそくに食べているのを見ることができ安心した ・今後の食育について考える良い機会になりました 等 ②地元の豊かな食材を学ぶ ・学校給食を通じて、地元で獲れた新鮮な食材を提供することが出来た ・地場産食材を使用して、子ども達が創意工夫をこらし考えて料理するアイデアメニューコンテストにおいて、美浜中と美浜中央小の児童生徒4人が入賞した。また、入賞したメニューは「こるば」等にて、期間限定で提供された。 ③食に関する授業の開催 ・「げんげんプラスup」の取組み 町内小学2年生「牛乳の成分や効果について」の授業を実施 町内小学5年生「だし」の授業でだしの試飲を実施 学校及び健康福祉課と連携し、授業を行うことが出来た。 ④食物アレルギー対応食の提供 ・乳や卵などの不使用マヨネーズ等を普段から取り入れ、対象の児童生徒にきめ細やかな対応食を提供した。 ・子ども達全員が同じ学校給食を食べられる機会を増やすことに取り組むことが出来た。							
			○学校給食への地場産食材の活用、郷土食、和食の推進(2-3-6) 学校給食で地場産(美浜町産・福井県産)食材を活用し、郷土食、年中行事食等を学校給食風にアレンジする。また、子ども子育て支援プロジェクトの一環として、町独自に『美し美浜プレミアム学校給食』を実施。	○学校給食への地場産食材の活用、郷土食、和食の推進 ・地場産食材の活用 「こどもの日」「七夕」「十五夜」「目の愛護デー」「ハロウィン」「冬至」「クリスマス」「正月」「節分」「ふるさとの日」「ひな祭り」など、行事時期に合わせた献立を考えて提供した。(年間約30回) 郷土食…ふくいサーモン、ソースカツ丼等 行事食…かぼちゃのフライ、鯛の梅肉煮、プリミンチカレーフライ等 ・『美し美浜プレミアム学校給食』 毎月1回、年間11回実施 町が負担して、1人1食当たり200円を上乗せした学校給食を提供。 ・秋の読書週間に合わせて「おはなし給食」を実施(計5回) ・子ども達が考えた「児童生徒考案献立」を実施(計8回) ・町の北前船日本遺産認定を記念した献立を実施(2月13日) ・美浜中学校開校50周年を記念した献立を実施(3月12日)	○学校給食への地場産食材の活用、郷土食、和食の推進 ・毎月行っている「アイアン献立」「ハッピー献立」「ふるさと献立」を中心に、「季節の献立」「省塩献立」「和食献立」「福井の魚献立」など、毎月色々なアイデアを取り入れ、児童生徒が学校給食に関心を持てるよう創意工夫を凝らすことが出来た。 ・秋の読書週間に合わせて、本に出てきた食べ物や料理を給食献立に取り入れ、児童生徒に提供した。(10月～11月 計5回) (例：ハリーポッターと賢者の石…ポークケチャップとフレンチフライ等) ・町が北前船日本遺産に認定されたことを記念した献立、美浜中学校の開校50周年を記念した献立を提供する等、多岐にわたり町独自の給食献立を提供することが出来た。							
			○学習支援員・生活支援員の配置(2-3-3) 各学校に学習支援員・生活支援員を配置し、児童生徒の学校生活や学習をサポート。	○学習支援員・生活支援員の配置 ・学習支援員・生活支援員 西小：5人、中央小：6人、東小：5人 美浜中：6人	○学習支援員・生活支援員の配置 ・支援員を配置することで、児童生徒へのきめ細かな支援と教員の負担軽減を図った。 ・支援員のスキル向上に向けた研修の検討も行った。							
			○スクールカウンセラー配置(2-3-4) スクールカウンセラーの配置により保護者や児童生徒等のカウンセリングや教職員への指導助言をし、不登校やいじめ等の早期発見・早期対応を図る。	○スクールカウンセラーの配置(県・町) 小学校…1人配置(週1回 学校訪問) 中学校…1人配置(週3回 学校訪問) ・県スクールソーシャルワーカー(1人)配置 週2回 学校訪問	○スクールカウンセラーの配置 ・各学校の実情に応じてスクールカウンセラーを配置。不登校や問題行動の早期対応を図り、児童生徒の困りごとへの支援を実施した。							
			○教育支援センター「なないろ」の運営(2-3-4) 不登校又は不登校傾向にある児童又は生徒の個々の状況に応じて、心の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談等を行うことにより、当該不登校児童等の教育の機会の確保や心理的発達、社会的自立への支援を行う。	○教育支援センター「なないろ」の運営 ・児童生徒の受け入れ 時間 9:30～15:00 場所 はあとびあ内2階 利用人数 6人	○教育支援センター「なないろ」の運営 ・安心できる居場所の提供と教育機会の確保に努めた。 ・保護者支援や関係機関との連携強化、3か月に1回の連絡会議の開催を通じ、きめ細かな支援体制を構築した。							

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		2 , 4 <										

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No	
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価			
	3	3 , 1	地域コミュニティの推進	社会教育の充実	○地区公民館を中心とした地域コミュニティの推進 各地区公民館を地域のまちづくりの拠点施設として利用促進することで住民同士の共助意識を育み、地域コミュニティが再生されるような施設運営を図る。 ・地域情報の発信拠点として、公民館だよりを毎月発行4館(北西郷、南西郷、耳、山東公民館) ・「みはま郷育プログラム」と連携した公民館講座を実施 減塩みそづくり(北西郷公民館)1回(10人参加) おさかな料理(北西郷公民館)3回(40人参加) 味噌づくり(南西郷公民館)1回(6人参加) ・講座総数 R6:70回(R5:57回) ・公民館各講座総受講者数 1,249人(前年度1,465人) 内訳 北西郷公民館 567人、南西郷公民館 220人、耳公民館 371人、山東公民館 91人 ・公民館利用者総数 R6:10,152人(R5:10,183人) 内訳 北西郷公民館 6,776人、南西郷公民館 1,944人、耳公民館 1,002人、山東公民館 430人	○地区公民館を中心とした地域コミュニティの推進 ・地域住民で組織する地区公民館運営委員が関わりながら広報誌を作成し、SNSなどの媒体を活用しながら、情報を積極的に発信することができた。 ・地域に伝わる伝統や技術の継承、近年希薄化しつつある地域における人の繋がりを再認識することができた。 ・公民館講座を通じて、地域の特色ある食材・郷土料理の継承を推進することができた。 ・公民館利用者は例年並みとなったが、各公民館における講座の実施回数が増え、地域コミュニティの拠点として活動ができた。	B	B	B	B	B	B	29

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No		
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価			
		3 , 2	○図書館サービスの充実(3-2-1) 美浜町立図書館運営基本計画に基づき、蔵書及び資料の充実を図り、閲覧や貸出、リクエスト等の利用者サービスの向上を図る。 ○子どもの読書活動推進、町民のくらしの中の役立つ図書館(3-2-2) ①子どもの読書活動推進 生涯学習施策と連携したイベントや図書館イベント、各学校及び保育園と連携することで、図書館の魅力を発信するとともに、乳児のブックスタート支援や乳幼児向けおはなし会の実施、各年代に応じた読書機会の提供を行うことにより、子どもの読書活動の推進を図る。 ②町民のくらしの中の役立つ図書館 利用しやすい窓口サービスの充実と郷土資料等の整備、各機関と連携したネットワーク型運営を行うことで、満足度の高いサービスを提供するとともに、利用者ニーズにあったサービスを提供することで、「町民の暮らしに役立ち、未来を照らす図書館」の実現を図る。 ○図書検索・貸出サービス、電子図書、オンラインデータベースの導入(3-2-3) ①図書検索・貸出サービス 図書館サービスの提供効率向上と新たな利用者拡大のため、図書館システムををはじめとする電子機器やインターネットサービスの活用を推進する。 ②電子図書、オンラインデータベースの導入 電子図書館開設やオンラインデータベースについて検討し、 ICT関係のニーズを把握する。	○図書館サービスの充実 ・図書や雑誌等の新規購入や古くなった書籍の除架・除籍による整理で、蔵書・資料の充実を図った。 蔵書冊数(図書のみ) 87,649冊、雑誌種数 64種、新聞種数 8種、 貸出点数(個人) 75,497点、新規購入冊数 3,365冊、 除架・除籍実施(除籍数) 2,965冊、 ・新たな図書との出会いを支援するため、本のコーナー企画展示を実施。 本のコーナー企画展示(一般:22回 児童:7回) ・誰もが本に触れられる機会提供のため、移動図書館を実施 高齢者施設で10回実施(R6.6.4～) 図書館PR活動を山東地区・北地区2回実施 来館者数 R6:51,987人(R5:50,645人) ※前年度比 103% 予約・リクエスト冊数 R6:5,156冊(R5:3,751冊) ※前年度比 137% ○子どもの読書活動推進、町民のくらしの中の役立つ図書館 ①子どもの読書活動推進 ・幼児から中学生までが親子で学べる「本」に関連するイベントとして、なびあす学びの森(なびとしよ島)を実施 絵本「おまたせクッキー」のクッキーをつくろう！(19人) 飛び出る恐竜カードをつくろう！(23人) 木の実のワークショップ(19人) ・みんなのわくわく本棚(大型絵本)の充実 約20冊増加(総数190冊) ・保育園や学校と連携したサービス提供の実施 図書館訪問:小学校2回・保育園9回 受入 保育園出前:1回訪問 ②町民のくらしの中の役立つ図書館 ・図書館内の照度確保のため、図書館内全面LED化工事を実施 ・サービス充実のためのスタッフ研修の実施(1回) 研修内容:TOOLi(ツールアイ)利用について ・地域愛文庫の継続実施(約100冊) ・逐次刊行物の収集・保存(約40種) ・利用者ニーズにあったサービス提供 よちよちおはなしO・1・2(乳幼児と保護者対象) おはなしたまてばこ(幼児～小学生対象) ・他館との連携による図書の相互貸借 他館からの借受 R6:1,123冊(R5:1,029冊) 他館への貸出 R6:394冊(R5:439冊) ・各自の読書履歴の把握のため、本の通帳の発行を継続 本の通帳:のべ1,160冊発行 ・お気に入りの1冊コンテストの開催 お気に入りの1冊コンテスト:247点応募 ○図書検索・貸出サービス、電子図書、オンラインデータベースの導入 ①図書検索・貸出サービス ・セルフ貸出サービス年間利用者数 R6:5,168人(R5:4,964人) (月平均約430人)(R元.9～利用開始) ②電子図書、オンラインデータベースの導入 ・図書館アプリ「なびとしよ」ダウンロード数 R6:80件(R5:67件) ・電子図書導入の検討	○図書館サービスの充実 ・利用者からのリクエストを踏まえた図書の購入に努めた。 ・汚損や激しい劣化または内容が古く誤りがある資料等、利用が困難な資料に対し、除籍作業を実施することができた。 ・一般書・児童書とともにコーナー企画展示を随時行い、季節ごとに図書を紹介することで新たな図書との出会いを支援できた。 ・移動図書館を実施し、誰もが図書や情報に触れあう機会を提供することができた。 ・サービスの充実により、来館者や予約・リクエスト数が増加した。 ○子どもの読書活動推進、町民のくらしの中の役立つ図書館 ①子どもの読書活動推進 ・なびあす学びの森(なびとしよ島)で3事業開催し、多くの親子に図書館を知っていただく機会を作ることができた。 ・家庭では利用機会の少ない大型絵本、大型紙芝居、仕掛け絵本等を集めたコーナーを充実させることにより、親子で来館することのきっかけづくりができた。 ・なびあすと連携して事業を行うことができた。 ②町民のくらしの中の役立つ図書館 ・図書館内をLED化することによって、明るく快適な読書環境・学習環境を提供することができた。 ・古文書等の資料を活用し、町内の郷土資料について専門知識を所有する美浜町歴史文化館や若狭国吉城歴史資料館と連携を図り、利用者からの相談に対応することができた。 ・各課からのレファレンスに相互貸借等を活用して対応した。 ・乳幼児対象の催しやブックスタート、保育園・学校からの来館受入等他機関と連携できた。 ・相互貸借を活用して、利用者のニーズを満たすことができた。 ・本の通帳は、新規発行数の伸びは少ないが、リピーターは増加している。 ・お気に入りの一冊コンテストを開催し、読書の楽しさや思いを伝える表現力を育むことによって、人と本をつなぐことができた。 ○図書検索・貸出サービス、電子図書、オンラインデータベースの導入 ①図書検索・貸出サービス ・図書館システムを活用し、正確・迅速なサービス提供に努めた。 ②電子図書、オンラインデータベースの導入 ・図書館アプリ「なびとしよ」の普及・提供に努めた。 ・県内の電子図書館導入状況を把握し、近隣図書館との情報共有に努めることができた。							

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		青少年健全育成の推進	○青少年育成美浜町民会議、青少年愛護センターの運営(3-3-1) 青少年育成町民会議、青少年愛護センターの活性化により、青少年の健全育成を図る。 ○青少年体験活動や親子ふれあい活動、若者自主活動の支援(3-3-2) 親子を対象にした親子のふれあいイベント等の開催や若者の自主的なイベント活動を支援することにより青少年の育成を図る。 ○美浜町子ども会育成連絡協議会による活動(3-3-2) 各集落子ども会の交流、地域内の世代交流 ○青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会による家庭指導(3-3-3) 学校・PTA等と連携した家庭でのSNSルール作りや使い方の指導	○青少年育成美浜町民会議、青少年愛護センターの運営 ・青少年育成町民会議 見守り隊の夏用ベストを購入したが、組織としての活動はできなかった。 ・青少年愛護センター 組織が機能せず、補導活動等もできなかった。 ○青少年体験活動や親子ふれあい活動、若者自主活動の支援 ・なびあすキッズデーの開催 アンパンマンショーにあわせて、射的、手作りゲーム、段ボール迷路などのキッズコーナーを設置した。同時開催として、ArtFoxがミニなびゲerlandを開催した。また、連携イベントとして、シナプスプロジェクトがにぎわいゾーンの一画で子ども夏祭りを開催した。 来館者数2,061人 ・ArtFoxの活動支援 なびあす若者実行委員会として活動するArtFoxが企画・運営するイベントに対し、チケット販売や事務、補助金等により活動を支援した。 実行委員会 会議9回 企画イベント 食のイベント「ムウちゃん食堂」、なびゲerland、ミニなびゲerland ○美浜町子ども会育成連絡協議会による活動 ・ミニバレーボール大会の実施 参加集落 17集落、参加選手数 152人 ・卓球大会の実施 参加集落 21集落、参加選手数 約150人 ・かるた大会の実施 参加集落 12集落、参加選手数 37人 ・嶺南子連かるた大会 6チーム参加予定 ※大雪のため中止 ○青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会による家庭指導 ・青少年育成美浜町民会議、美浜町青少年町愛護センター、人権研生活指導部会が連携して、夏休みと冬休みの2回、青少年育成啓発チラシ「どの子もわが子のように」を作成し全戸配布。	○青少年育成美浜町民会議、青少年愛護センターの運営 ・組織が形骸化し、組織として活動ができなかった。次年度以降、組織を再編し、再始動させていく必要がある。 ○青少年体験活動や親子ふれあい活動、若者自主活動の支援 ・なびあすキッズデーでは、手作りゲームコーナーを運営し、来場した子どもたちに楽しんでもらうことができた。アンパンマンショーの影響もあり、多くの方に来場していただくことができた。 ・なびあすキッズデーでは、ライオンズクラブやArtFox、まちづくり推進課など、外部との連携を図ることができたが、ジュニアリーダーや青少年育成美浜町民会議と連携することができなかった。 ・ArtFoxは、R6年度より自主組織として活動を開始することができ、イベントの企画・運営を行うことができた。 ○美浜町子ども会育成連絡協議会による活動 ・参加したい子どもが参加しやすいように、合同チームやルールの柔軟な運用などを行った。 ・徐々に参加集落も増えてきているが、出場しないことが常態化してしまった集落が出てきている。また、かるたへ取り組む集落が激減しており、次年度以降に向けて検討が必要である。 ○青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会による家庭指導 ・子ども達の実情に合わせた啓発チラシを配布することができた。 ・各学校が行っている生活調べとも重なる部分もあり、双方向からの働きかけを行うことができた。	B	B	B	B	B	B	31

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		3, 4	社会教育活動への参加促進 ○なびあすを核とした社会教育活動への参加促進(3-4-1) なびあす講座、はあとふる学園、なびあす学びの森、人権講座などへの参加を促進させるため、町民への分かりやすい情報提供、参加しやすい環境づくりや多様なニーズへの対応を図る。 ○公民館を拠点とした地域活動の支援(3-4-2) 地区公民館運営委員会の自主的な活動の促進と、自主防災組織や地域住民のサークル活動の支援を図る。	○なびあすを核とした社会教育活動への参加促進 ・なびあす講座への参加促進 町民が参加しやすい講座の企画をするともに、前期分と後期分に分けた全体チラシと講座ごとのチラシ作成を行うことで、分かりやすく選びやすい周知広報に努めた。 ・はあとふる学園への参加促進 受講生で構成された企画委員が、受講生が学びたい内容、創意工夫に富んだ企画をし、自ら周知広報することで参加促進を行った。 ・なびあす学びの森の参加促進 チラシを町内保育園・学校、公共機関に配布・設置、HPやSNSで情報提供を実施し、長期休みを中心に土日開催することで、親子が参加しやすいよう配慮した。 ・人権講座への参加促進 夜の開催を減らし、土日開催を試験的に導入した。 ○公民館を拠点とした地域活動の支援 ・美浜町地区公民館社会教育関係団体登録団体 R6:14団体(R3:14団体 R4:16団体、R5:15団体) ・各地区公民館運営委員会自主活動 北西郷公民館運営委員会活動:子どもふるさと夏まつり(87名)、屋外清掃活動(28名)、北地区交流グランドゴルフ大会(48名)、北地区合同ふれあいサロン(63名)、ふでやまウォーキング(78名) ・南西郷公民館運営委員会活動:公民館まつり(300名) ・北西郷公民館グランド芝植え作業 参加者:北地区民 25名 ・地域発見事業(北西郷公民館) 参加者 27名	○なびあすを核とした社会教育活動への参加促進 ・なびあす講座 新しい講座の企画を工夫し開催し、前年度より多くの受講者が参加した。 ・はあとふる学園 企画委員を中心とした受講生による声掛けにより受講生が増えた。 ・なびあす学びの森 年間10ワークショップ 親子75組 199人(子ども101人／89人)の参加につながった。うち、8ワークショップが満員だった。 ・人権講座 土日開催を実施しても目立った参加者の増加は見られなかったが、1年では正確なデータは得られないため今後も検証していく。 ○公民館を拠点とした地域活動の支援 ・地域住民のサークル活動の場として、年間3,120人の方に公民館を活用していただき、その機能が十分に発揮できた。 ・北西郷公民館の屋外運動場について、地元区民と共同で芝生広場の整備を行い、地域の憩いの場となった。 ・町内の主要な施設を見学体験するバスツアーを継続して実施し、地域を再発見することができた。	B	B	B	A	B	A	32
	生涯スポーツの推進	4, 1	スポーツ教室・体力づくり教室及びニュースポーツの普及(4-1-1)(4-1-2) 町民が生涯にわたってスポーツに親しめるよう、子供から高齢者まで参加できる体力づくり教室やスポーツ教室を開催する。 また、誰もが気楽に参加し、楽しめるニュースポーツを普及する。	○スポーツ教室・体力づくり教室及びニュースポーツの普及 ・体力づくり教室(一般向) 7教室(上期、下期) 265人(R5:7教室 250人))15人増 ・スポーツ教室(小学生向) 卓球、バドミントン、バスケットボール 57人(R5:卓球、サッカー 35人)1種目増、22人増 ・ニュースポーツ普及(スポーツ推進委員) 町内4か所(ポッチャ、モルック等) 268人(R5:112人)156人増	○スポーツ教室・体力づくり教室及びニュースポーツの普及 ・体力づくり教室 令和5年度に比べて参加者が増加し、健康増進と普及拡大に繋げることができたが、参加者が毎年同じこともあり新規参加者の獲得に努める必要がある。 ・スポーツ教室 令和5年度の教室内容を変更して実施し、参加者は増加し、小学生のスポーツ促進に繋げることができたが、継続して教室を実施するための指導員の確保が課題である。 ・ニュースポーツ普及 令和5年度に比べて参加者数は増加し、スポーツ推進委員の積極的な活動により町内各地区で実施し普及に努めることができた。	B	B	B	B	B	B	33
		4, 2	○体育施設管理運営(4-2-1) 総合運動公園を中心に、ふれあい広場、西郷健康ひろば、県立漕艇場等を拠点施設に位置づけ、各施設において利用者に配慮した施設機能拡充や魅力度向上を図るとともに、誰もがスポーツに親しみ健康増進に取り組むことができる環境づくりを推進する。	○体育施設管理運営 ・年間利用者数 ※()は令和5年度実績 総合運動公園 61,962人(61,437人)525人増 西郷健康広場 16,987人(18,094人)1,107人減 ふれあい広場 4,249人(6,545人)2,296人減 ゆうあい広場 6,689人(6,055人)634人増 ・総合運動公園 総合体育館1FTイレ様式化工事、総合体育館非常用発電設備不良箇所取替工事、総合体育館消防設備不良箇所取替工事、総合体育館電動ステージワイヤー交換工事、他 乗用芝刈機購入、ソフトバレー支柱購入 ・ふれあい広場 植栽管理工事 ・社会体育施設に関する、優先順位を踏まえた工事計画を策定	○体育施設管理運営 ・体育施設の設備の保守点検及び修繕等について、概ね計画通りに実施することができた。 ・老朽化が進んでいる総合体育館を中心とした工事が完了したため、今後利用者が安全かつ快適にスポーツができる環境を整備することができた。今後、優先順位を踏まえた工事計画の策定が必要。 ・コロナ禍も明け、利用者数はR5年度と同程度の水準で推移しているが、ゲートボールなどの競技人口の減少に伴い西郷健康ひろばやふれあい広場の利用が減少しているため、利用者の増加に向けた取組みが必要である。	B	B	B	B	B	B	34

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No	
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価		
	推進体制の強化	4・3	○スポーツ協会運営整備及びスポーツ少年団の体制整備(4-3-1) 各主催大会を開催する。 地区スポーツ協会、種目協会の支援及び育成を図る。 また、スポーツ少年団においては、スポーツを通して団員相互の交流を深め、青少年の健全育成とともに、活動を支える指導者や保護者・地域の教育力を高めることに寄与する。	○スポーツ協会運営整備及びスポーツ少年団の体制整備 ・町スポーツ協会主催事業 9種目中9種目実施 約600人参加 ・スポーツ少年団 6種目6団体に育成補助金を交付 団員数118人	○スポーツ協会運営整備及びスポーツ少年団の体制整備 ・スポーツ協会主催事業 コロナ禍が明けて徐々に参加者が増えてきており、全種目で大会を開催することができたが、スポーツ人口の拡大に向けて具体的な取組みが必要である。	B	B	B	B	B	35
		4・4	○美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会開催事業(4-4-1) 当町出身で名誉町民である歌手の五木ひろしさんのご協力をいただき、風光明媚な若狭湾国定公園の海岸線コースを潮の香りを肌で感じながら楽しく走っていただくために開催する。	○美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会開催事業 ・第36回美浜・五木ひろしふるさとマラソン マラソン19種目、ウォーキング1種目 エントリー数 1,946人 当日出走者数 1,721人	○美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会開催事業 当日は強風により開催が危ぶまれたが、大会の中止基準がなかったため開催判断が遅れレースの開始にも影響を及ぼす恐れがあった。そのため、次年度に向けて中止の判断基準を作成した。	B	B	B	B	B	36
	スポーツ交流の促進		○ボート大会・ボート体験教室等の実施(4-4-2) ・第37回町民レガッタの開催	○ボート大会・ボート体験教室等の実施 ・町民レガッタ ⇒ 悪天候のため中止 参加予定クルー数 191クルー (うち交流の部 55クルー)	○ボート大会・ボート体験教室等の実施 第35回大会より参加予定クルー数が増加したが、悪天候により開催以来初めて中止となった。コロナ禍以降、参加クルーの参加意欲が高まっているため、次年度以降の大会開催に向けて関係機関と協議を進め、ローイングの普及拡大の必要がある。						
		4・5	○「ローイングの町美浜」の推進(4-5-1)(4-5-2) 交流人口拡大、裾野拡大、機運醸成の観点から当町の町民スポーツであるローイング競技を活用し、スポーツによるまちづくりを推進する。	○「ローイングの町美浜」の推進 ・福井県立艇庫 合宿受入実績※()は令和5年度実績 930人(1,373人)、91日間(37日間) (U23、U19、シニア) ・福井県が久々子湖漕艇場2000m延伸化 測量調査業務完了(令和7年3月末) 2000m延伸化工事着工予定(令和7年7月頃) ・第20回全国中学校選抜ローイング大会の開催 参加選手 96人 約200人来場	○「ローイングの町美浜」の推進 ・令和4年12月から日本オリンピック委員会のボート競技強化指定センターに久々子湖漕艇場が認定されたことで、U23やU19の日本代表合宿の拠点となっているが、世界大会等への参加選手をしばって合宿を行っているため受入日数は増加したが人数は減少している。 ・福井県が久々子湖漕艇場の2000m化に向けた調査設計業務が完了した。	B	B	B	B	B	37
		国体レガシーを活かしたスポーツの推進									

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
	5	5'1	芸術・文化の創造 芸術・文化の機会提供及び推進	○なびあす文化事業(5-1-1) 「町民に愛されるなびあす」を目指し、ファツィオリ社製ピアノF308やホールの特徴を活かした様々なジャンルの公演、美浜美術展など、町民に質の高い芸術文化を提供及び推進を図る。	○なびあす文化事業 ・自主文化公演 主催:8公演開催 （お笑い、クラシック、キッズ、演劇、伝統芸能、合唱、音楽・娯楽） 共催:1公演開催 （クラシック） 総チケット販売率 86.2%、来場者割合 82.6% ・第35回美浜美術展 R6:200点(R5:151点) ・なびあす自主文化事業企画委員会 町民が常に訪れたいくなるような企画の提供や町民が主催するホール事業の企画・運営への支援等を行い、新しい時代に即した生涯学習センターとして、芸術文化の薫り高いまちづくりに寄与する。 計4回開催 ・第1回(7/12) 令和6年度なびあす自主文化事業について など ・第2回(10/3) 令和7年度なびあす自主文化事業企画(案)について など ・第3回(2/18) 令和7年度なびあす自主文化事業企画(案)について など ・第4回(3/25) 令和7年度なびあす自主文化事業企画について など	○なびあす文化事業 ・自主文化公演のチケット販売率及び来場者割合は、ともに8割以上を達成することができた。 ・FAZIOLI F308を使用したピアノリサイタルをはじめ、8つの異なるジャンルの公演により感動の提供と文化の発信を推進できた。 ・町民参加型の伝統芸能公演を開催し、地域住民が身近に伝統芸能に触れ、学び合う機会を提供。同時に日頃のご愛顧への感謝を込めた「なびあすファンクラブThanks公演」を実施し、「町民に愛されるなびあす」を目標に促進を図った。 ・美浜美術展は毎年レベルの高い作品が応募されるが、今回はさらに周知方法や募集要項(日本画も含む)の見直しを行うことで、応募数が増加した。次年度は、展示機会の拡大等についても検討していきたい。 ・令和6年度の自主文化公演チケット販売率及び来場者割合は、ともに8割以上の実績を残し、企画委員による最適な公演の選定ができた。 ・来場者からは高い評価を得ている。						
				○学校アウトリーチ(5-1-2) 子どもたちに芸術・文化を身近に感じてもらうため、学校に出向いて芸術・文化の鑑賞機会を提供する。	○学校アウトリーチ ・合唱作曲家 弓削田健介氏を町内小学校に招き、「弓削田健介～いのちと夢のコンサート～」を開催 令和6年10月3日(木) 開催 参加学校: 美浜東小学校、美浜中央小学校 参加者: 各校全校児童、教員、関係者 ※児童の感想より抜粋 ・ゆげたさんのしあわせになあれのとき目をつぶったら家族や友達、知っている人全員に私の名前を言ってもらえて感動しました。ゆげたけんすけさんの声や歌声、とても素敵でした。 ・命と夢のコンサートを見ていろいろ辛いことを乗り越え日本人々を元気にしているんだなと感動しました。目をつぶって自分の名前を呼んだらなみたがでてしまいました。	○学校アウトリーチ ・「ひとりひとは大切ないのち」「しあわせを願って名前をつけてもらった」と、小学生に分かりやすく、心に届く講演であり、子どもたちの感想も好評だった。 ・弓削田氏 作詞・作曲「しあわせになあれ」を各校 全校生徒で合唱し、やさしい音楽で会場が一体となった。 ・多くの子どもたちに感動を届けることができた。	B	B	B	A	A	A

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		文化活動への町民参画の推進	5'2 ○美浜美術作家会の活動促進(5-2-1、5-2-2) 美浜町出身の美術作家で構成された実行委員会が企画・運営する美浜美術作家展を、なびあす施設を活用して開催する。 ○町民の文化活動の活性化(5-2-2) 美浜町文化協会やなびあす子ども合唱団等が活動する場所や機会を提供することで、町民の文化活動の活性化を図る。	○美浜美術作家会の活動促進 ・第5回美浜美術作家展(8/3～16) なびあすコミュニティルーム、ホワイエで開催。 入場者数 287人 ○町民の文化活動の活性化 ・美浜町文化協会の活動場所及び発表機会の提供 第30回美浜町文化協会展をなびあす学びのストリートにて、3ヶ月にわたり開催する場所を提供。 文化協会所属団体の活動場所または活動発表の場として、なびあす施設の活用を推進。 ・なびあすアートフェスタ2024による活動成果等の発表 10/27～11/10に開催したなびあすアートフェスタ2024において、美浜町文化協会をはじめとする各種団体、町民が連携・参画し、幅広く活動の成果を発表する機会を提供。 ・なびあす子ども合唱団の活動場所及び発表機会の提供 なびあす施設や北西郷公民館などを、月2回程度(年間28回)のレッスン場所として提供。 レッスン成果の発表機会の提供(6回) ※6/1 シベリア孤児との歌を通じた交流プログラム 10/5・11/16「観光列車はなあかり」お出迎え 10/20 新庄区敬老会、 11/4 なびあすアートフェスタ 2/16 びあす子ども合唱団2025 ジョイントコンサート ～なかにしあかねさん・辻裕久さんといっしょに～	○美浜美術作家会の活動促進 ・美浜美術作家会の会員11人の作品の展示や美方高校美術部作品、美浜中学校美術部作品を連携展示し、毎年開催したいと作家の創作意欲を掻き立てることができた。また、5周年を記念し、より多くの作品を展示したり、体験コーナーを開催したりすることができた。 ○町民の文化活動の活性化 ・なびあすを活用して地域に根ざした文化活動を行うことで、人と人が集まり、共通の喜びや生きがいを見つめけるきっかけに繋がり、文化活動の活性化を図ることができた。 ・約2週間にわたって開催した。各種団体や関係者が連携し、秋の文化の祭典を大々的に行うことで町民の文化への関心が高まるとともに、町内外の多くの方にも披露する機会を提供したことで、活動の活性化を図ることができた。 ・定期的なレッスンと発表機会の提供により、活発な活動を行うことができた。 ・R4設立以来、積極的な活動により認知度が上がり、R6年度は町内外(敦賀市、新庄区)から出演オファーがあった。それにより発表機会が増え、団員の意欲向上や成長に繋がった。	B	B	B	B	B	B	39
			5'3 ○文化芸術活動団体の育成及び活動支援(5-3-1) 文化芸術活動を行う団体の育成及び活動を支援することで、地域文化活動の定着と発展を図る。 ○なびあすアートフェスタ2024の開催(5-3-2) 美浜町文化協会をはじめとする各種団体、個人等が文化活動に広く有効活用できるよう、なびあすを拠点とした「なびあすアートフェスタ2024」を開催する。 ○なびあすファンクラブ(5-3-3) 令和5年度から開設したファンクラブ会員制度を運用することで、なびあす公演をお得に鑑賞できるなど、文化に親しむ機会を提供し、なびあすの利用者拡大を図る。	○文化芸術活動団体の育成及び活動支援 ・なびあすコーラスラインの育成及び活動支援 合唱を通して歌を愛する様々な世代をつなぎ、「歌に集い、歌でつながぎ、歌ごえがこだまする 美し郷づくり」を推進する本団体に対し、場所の提供及び事務、補助金により活動支援を行うとともに、「ふるさと合唱コンクール」開催の支援を行った。 ・なびあす子ども合唱団の育成及び活動支援 R4年度に町が設立。町で事務及び活動費を負担することで、育成及び活動の支援を行った。 団員数38人(R6.3月現在) ※クラス掛け持ち1名 ボコアボコクラス6人／ピアチェボーレクラス25人／ルーチェッククラス8人 美浜町 19人、若狭町 12人、敦賀市 7人 ※R5比較：1名増加、38人中2名休会 ※年間28レッスン ※ステージ6回(なびあす：2回、美浜駅2回、新庄区1回、敦賀市1回) ○なびあすアートフェスタ2024の開催 ・開催期間 10/27～11/10 ・オープニングイベント(11/3) ・チアドリームプロジェクトスペシャルステージ(11/3) ・文化交流祭(11/3～11/8) ・なびゲerland(11/10) ※来場者数 R6:3,817人(R5:4,332人) ○なびあすファンクラブ ・会員登録者総数 979人(7/10時点) R6:242人増(R5:627人) 内訳 永年会員(町内)R6:135人増(R5:367人) 年会員(町外) R6:107人増(R5:260人)	○文化芸術活動団体の育成及び活動支援 ・なびあすコーラスラインが主体となり、合唱コンクールを開催することで、町内外の合唱団体の相互連携を図り、町民に合唱の魅力と感動を共有できる機会を提供するとともに、地域文化としての「合唱」の定着及び発展に寄与した。 ・年間スケジュールに基づき大きなトラブルなく活動できた。 ・ルーチェッククラスを増設し、年齢層に合わせたレッスンが実施できた。 ・一方、ステージ出演へ向けた全クラス合同レッスンに変更することも多く、特に保育園児への負担に配慮が必要であった(内容、時間など)。 ・制服の新調も含め活動に係る費用を町が費用を負担したが、今後、自立自走を推進する必要がある。 ○なびあすアートフェスタ2024の開催 ・展示部門は、工芸・書道・絵画など、なびあす館内が多い作品で彩られた。 ・ステージ発表は、合唱・太鼓・弾き語りなど、迫力あるパフォーマンスを来場者に2日間にわたり披露することができた。 ・体験部門は、茶道・己書など、様々な文化活動の様子を来場者に体験してもらうことができた。 ○なびあすファンクラブ ・「会員価格での提供」や「ファンクラブ先行販売」などの特典がインセンティブとなり、会員登録が増えた。 ・なびあすファンクラブ会員のチケット購入者率は全体の5割となり、チケットの販売促進に繋がった。	A	A	A	A	A	A	40

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No		
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価			
		5、4 文化施設の活用	○なびあす自主文化公演の開催(5-4-1) なびあす公演により、若者を含め幅広い年齢層が芸術や音楽、多彩な文化芸能に触れることができる機会を提供する。 ○なびあす通信、なびあす館内を活用した情報提供(5-4-2) 芸術団体等に係る活動情報をなびあす通信に掲載するとともに、なびあす館内で情報掲示する情報提供を行う。 ○ピアノ事業(5-4-3) ピアノ「FAZIOLI F308」を活用した、育成プログラムとして、ポルタ特別レッスンやPrimoPassoを実施するとともに、ピアノに触れる機会を提供するピアノオープンDay及びピアノ教室オープンDayを実施する。 ○地区公民館、歴史等による芸術文化の場の提供(5-4-4) 地区公民館及び分館等を活用し、写真や絵画等の展示及び芸術文化に係る講座開設など、住民が身近で気軽に参加できる場を提供する。	○なびあす自主文化公演の開催 ・漫才のDENDŌin美浜(主に20代対象) ・石井琢磨47都道府県ツアー in FUKUI(主に30代対象) ・アンパンマンショー(主に未就学児～小学生対象) ・BRASS EXCEED TOKYO(主に20～50代対象) ・伝統芸能 in なびあす DON! DOKO! DON! (主に50～60代対象) ・劇団四季ファミリーミュージカル『ふたりのロッセ』(主に10代対象) ・なびあす子ども合唱団2025 ジョイントコンサート(主に40～60代対象) ・新たなステップ応援イベント(主に10～20代対象) ※R6年度 10歳未満(16.9%)、10代(6.5%)、20代(6.4%)、30代(18%)、40代(11.9%)、50代(10.3%)、60代(13.4%)、70代以上(16.6%) ※R5年度 10歳未満(10.1%)、10代(10%)、20代(5.6%)、30代(10%)、40代(15.4%)、50代(16.3%)、60代(18.3%)、70代以上(14.3%) ○なびあす通信、なびあす館内を活用した情報提供 ・美浜町文化協会やなびあすコーラスライン、なびあす子ども合唱団の活動情報やなびあす学びのストリートや館内における、国吉城歴史資料館および歴史文化館の展示の実施と、文協展ならびに美浜美術作家展に関する情報をなびあす通信に掲載することで、広く情報提供を実施。 ・文化施設の活動情報に係るチラシやポスター等をなびあす館内に掲示 ○ピアノ事業 ・ポルタ特別レッスン(中・上級クラス) プロの音楽に触れ技術向上に繋がるよう著名な講師によるレッスンを、中・上級者向けに実施。 開催: 3回(講師: 大宅さおり氏、上野真氏、川村文雄氏) 総参加人数 町内1名(+1)、町外23名(+7) ※()はR5との比較 ・ポルタPrimoPasso(初級者クラス) 遊び感覚で音に触れ楽しくピアノの基本を学べるレッスンを、初級者向けに実施。 開催 全4回(講師: 松居利佳氏、平吹志保氏、加藤絵里子氏) 参加人数 町内1名(-1)、町外2名(-2) ※()はR5との比較 ・ピアノオープンDay 多くの方にFAZIOLI F308ピアノに触れてもらうとともに、音色と響きを楽しんでもらう機会を提供するため、年5回開催(各回定員14名) 参加総人数 町内12名(+1)、町外56名(+6) ※()はR5との比較 ・ピアノ教室オープンDay 町内の5教室に対し、FAZIOLI F308ピアノでレッスンできる機会を提供 104名(+3教室) ※()はR5との比較 ○地区公民館、歴史等による芸術文化の場の提供 ・耳公民館(歴史文化館)を活用し、美浜中央小児童の写生画や版画の作品展示、弥美神社の茅の輪づくりや大しめ縄ができるまでの写真展を行うことで、保護者及び周辺住民が気軽に来場し作品を鑑賞してもらえるような場を提供した。 来場者: 延べ120人	○なびあす自主文化公演の開催 ・R5年度は30代までの若年層の来場者割合が35.7%であったのに対し、R6年度は47.8%と割合が高くなり、高齢者だけでなく幅広い年齢層の方々に楽しんでもいただくことができた。 ・10～20代の来場が他の世代の約半数であるため、企画の工夫が必要 ○なびあす通信、なびあす館内を活用した情報提供 ・なびあす通信を通して、なびあすのみならず町内文化施設の活動情報を提供することができた。 ・学びのストリートや館内での掲示の実施など、なびあすを活用し町民への情報発信および活動内容の発表を行うことができた。 ○ピアノ事業 ・R5年度の定員割れを受け、R6年度は講師との打ち合わせを行い受講料の値下げや、早めの周知、一度に3回申し込めるようにするなどの工夫により、定員を上回る申し込みがあった。 ・アンケートでは「大変良かった」100%、「今後『ポルタ特別レッスン』が開催されたら受講しますか。」する96%など高評価をいただき、文化意識の向上と人材育成がに繋がった。 ・受講者(3名)が少なかったため、次年度には受講者増加に向けた企画の見直しが必要である。 ※参加者が少なかった理由 ①講師が毎回変わることによる抵抗がある(人見知り)。 ②発表会があり、初心者にはハードルが高かった。 ③開催日が6月かつ毎週であったためニーズに合わなかったから。 ・早めの周知を心掛け、応募期間をR5年度より長く確保するなどの工夫により前年度より参加者が増加し、文化意識の向上を促進した。 ・著名なアーティストが弾いたピアノであり、FAZIOLI F308に魅力や価値を感じる県外の参加者が多く、美浜町を知ってもらうツールとなった。 ・R5年度より参加教室が増加し多くの方にFAZIOLI F308を活用していただけたことにより、文化意識の向上と、将来の人材育成に繋がった。 ○地区公民館、歴史等による芸術文化の場の提供 ・児童の作品や歴史を飾った写真展の開催により、多くの方に鑑賞いただくことができた。 ・令和6年度は、地区公民館における芸術文化に係る講座の開設はできなかったが、次年度には住民が気軽に芸術文化に触れることができる講座の企画を検討する。	B	B	B	B	B	B	41

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5		R6		No		
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価			
		5 ' 5	○文化交流等による文化意識の向上と人材育成(5-5-1) なびあすアートフェスタをはじめ、各種文化事業を通してなびあす等を活用した住民、演奏者、スタッフ等の交流、鑑賞及び体験による文化意識の向上と将来の人材育成を図る。	○文化交流等による文化意識の向上と人材育成 ・なびあすアートフェスタ2024 文化協会をはじめとする各種団体や個人、関係各課が連携及び参画することで、文化交流を実施。 ステージ部門参加団体:18団体 展示部門参加団体:22団体 体験部門参加団体:3団体 来場者総数 計3,817人 ・ポルタ特別レッスン 有名ピアニストによる特別レッスンを、中・上級者向けに実施し、講師との貴重な音楽交流を楽しみながら技術向上を目指し、自らの将来像を描いてもらうため実施。 ※参加動機(複数回答可) ・コンクールや発表会に向けて上達したいから 39% ・講師に惹かれたため 27% ・ピアノを学び直したいため 18% ・過去に受講して良かったため 14% ・その他 2% ※参加者感想より抜粋 ・もっともっと技術面、曲の構成の仕方、音楽の仕上げ方を高いものにしていきたい。自分から発見できる演奏家になりたい。 ・今後も自分のピアノを深く弾いていきたいです。また今回レッスンを受けて私も指導するときに、こうありたいなと思いました。指導のために音楽史などの勉強もしていきます。	○文化交流等による文化意識の向上と人材育成 ・なびあすアートフェスタ2024の「オープニングイベント」や「文化交流祭」を通して、町内で活動している文化団体が交流し、活動の成果を相互に発表し、鑑賞または体験することができた。また、多くの来場者がステージ発表や体験、展示物を鑑賞することで、文化意識の向上に繋がった。 ・ポルタ特別レッスン 参加者が目的を持って上達のため受講しており、受講後のアンケートにて「大変良かった」100%、「今後ポルタ特別レッスンが開催された場合受講したい」96%であったことから、ニーズに合った良質なレッスンにより、文化意識の向上と将来の人材育成を図ることができた。	A	A	A	A	A	A	42
		6	6 ' 1	○国吉城址の調査研究・史跡価値の向上(6-1-2) 国吉城址の史跡としての価値を高めるため、外部で国吉城の周知を進めると共に、全国城跡等石垣調査整備研究会等の学術研究会へ積極的に参加し、知見を高め、情報交換を行い、国吉城址の更なる史跡的価値の向上に努める。 ○北前船日本遺産登録事業(6-1-3) 美浜町に残る北前船関連の文化財を日本遺産に登録を目指すと共に、全国の登録自治体と協力して地域活性化を図るため、文献、資料調査等を実施する。 ○開発事業に伴う試掘調査(6-1-4) 周知の埋蔵文化財包蔵地区域内における開発事業に伴い、土中の文化財の有無を確認するため試掘調査を行う。	○国吉城址の調査研究・史跡価値の向上 ・『御城印合戦 in 京都 2024』講演 ・令和6年度米原市歴史講座 ・「三方の語り部」講習会(若狭町) ・河原市老人クラブ「お話を聞く会」(講演) ・熊川宿まちづくり総集会講演(若狭町) ・越前若狭お城フェス講演・トークセッション(福井市) ・第31回全国山城サミット益田大会参加 ・第20回全国城跡等石垣調査整備研究会(福岡大会)参加 ・「お城EXPO2024」出展協力 ・「御城印合戦in福知山」出展協力 ○北前船日本遺産登録事業 ・日本遺産追加登録認定(認定記念セミナー開催) ・日本遺産認定企画展・巡回展(歴史文化館ほか町内) ・北前船寄港地フォーラムin北海道釧路参加 ・北前船寄港地フォーラムin加賀・福井(美浜会場)開催 ・北前船に関する講座(日本遺産認定記念講演会、みはま歴史講座等) ・日本遺産認定記念パンフレット、構成文化財紹介パンフレットの発行 ・日本遺産認定記念横断幕作成 ○開発事業に伴う試掘調査 ・発掘調査で出土・採集した金属製遺物に対する保存処理業務を実施 ・開発行為に伴う現場立会:4回(毛ノ鼻遺跡、興道寺遺跡、下田遺跡、上野遺跡) ※発掘および試掘調査の実施なし。	○国吉城址の調査研究・史跡価値の向上 ・県内外で国吉城址に関する講演機会を得て、発掘調査の成果や赤色立体地図から判明した新知見、『国吉籠城記』の解説等、国吉城の関わる史実や伝承を含め解説し、広く周知することができた。 ・研究会等では、各地の研究者や発掘調査に携わる学芸員らと懇談し、最新知見の情報交換を行うことができた。 ○北前船日本遺産登録事業 ・北前船日本遺産の認定に向けて取り組んできたが、令和6年6月、「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」構成自治体の50番目に追加認定された(村上市、岡山市と共に。現在52自治体)。 ○開発事業に伴う試掘調査 ・県とも協議の上、開発行為に伴う文化財包蔵地の立会調査を行い、遺構の有無を確認した。	A	A	B	A	A	A

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
歴史文化の保存と継承	6・2	国吉城址及び佐柿の文化財保存と整備・活用(6-2-1.6-2-5)	国吉城址の文化財的価値を損なわない範囲で、城山の環境保全及び史跡整備(定期的な草刈り、城山樹木整理、幟設置、城山遊歩道の修繕)を行う。また、国吉城や佐柿の歴史的町並みのPR、国登録有形文化財である旧田辺半太夫家住宅の活用に努める。 地元佐柿区と連携した歴史的景観を活かしたまちおこしに協力し、協働のまちづくりを進める。	国吉城址及び佐柿の文化財保存と整備・活用 ・城山の環境保全(定期的な草刈り、城山頂上部本丸周辺及び連郭曲輪群Ⅱ郭斜面の雑木整理、現存石垣等の保全と眺望確保等) ・史跡整備(遊歩道修繕、城山・旧佐柿町奉行所跡ライトアップ等) ・旧田辺半太夫家住宅座敷の活用(会議、打ち合わせ、徳賞寺住職の達磨絵作品の公開、結婚式の前撮り等)	国吉城址及び佐柿の文化財保存と整備・活用 ・城山の環境保全や史跡整備は、地元の一般社団法人佐柿国吉100年プラン推進委員会に一部委託することで、地域と連携した文化財保護、まちづくりの取り組みを行うことができた。 ・旧田辺半太夫家住宅座敷は、様々な形で活用がなされた。							
		歴史資料及び指定文化財の保存・維持管理(6-2-2、6-2-8)	収集した古文書・写真を整理して内容を把握し、リスト化する。古文書は一部解説なども行う。 資料の閲覧・公開・貸出を一部行いながら資料の寄託、寄贈等の整理を実施する。 町指定無形民俗文化財管理団体等の取り組みに対し、備品修繕等に対する補助を実施する。	歴史資料及び指定文化財の保存・維持管理 ・受入・所蔵資料の整理・目録作成 資史料(近世～現代)約340点 画像資料(写真・データ画像)約600点 図書・冊子・ファイル資料等 約130点 映像資料・音声資料 約25点 ・北前船日本遺産構成文化財を含む寄贈資料の整理 ・麻生王の舞保存会、早瀬子供歌舞伎保存会、早瀬区に対して補助を実施	歴史資料及び指定文化財の保存・維持管理 ・年度を通して多くの古文書整理や画像資料の整理を進めることができた。 ・博物館や大学及び町関係団体等に対して、写真などのデータを提供することで、資料活用により各活動に寄与することができた。 ・所有者が県へ寄贈する予定であった町指定文化財「弥美川流域変遷井水論記」を町への寄贈という形で町外への流出を防ぐことができた。							
		国史跡興道寺廃寺関連遺跡の保存活用事務(6-2-3)	国の指定を受けた興道寺廃寺跡周辺の関連遺跡の発掘調査を実施する。出土品の整理、調査研究を進める。史跡の保存活用計画等を策定する。	国史跡興道寺廃寺関連遺跡の保存活用事務 ・史跡指定地の公有化に向け、家屋移転補償に係る建物調査や不動産鑑定評価等を実施した。 ・建物調査業務委託(家屋部分) (業務期間)R6.6～R6.10 (業務内容)建物3棟・付帯工作物・動産調査等 ・不動産鑑定評価業務委託(建物敷地) (業務期間)R6.6～R6.7 (業務対象)宅地1筆	国史跡興道寺廃寺関連遺跡の保存活用事務 ・令和7年度からの国庫補助を受けての公有化に向けた取り組みを進めることができた。 ・公有化に向けた諸課題の整理・検討を行うほか、公有化・史跡整備の円滑化に資するため有識者会議を設置した。	A	A	A	A	A	A	
		国吉城歴史講座(6-2-7)	現場見学やワークショップ、座学等、国吉城と佐柿、戦国美浜に関連する内容で実施することにより、広く国吉城への関心を高め、理解を深めてもらう「国吉城ファン」を育成し、将来的にはガイド育成に繋げる。	国吉城歴史講座 ・第1回:美浜と軽井沢の不思議なご縁～軽井沢編～(6/23、38人) ・第2回:旧三笠ホテルの過去から現在、そして未来―保存修理工事の成果から―(7/14、31人) ・第3回:夏休みワークショップ(7月末～8月末土日祝) ①国吉城ペーパークラフトをつくろう(14人) ②オリジナル御城印をつくろう(458人) ・第4回:美浜と軽井沢の不思議なご縁～美浜編～(9/29、31人) ・第5回:古里をのろしでつなごう in 国吉城(10/20、29人) ・第6回:戦国若狭の動乱と高浜の山城(11/24、36人) ※R6年度受講者数合計:637人	国吉城歴史講座 ・R6年度は、長野県軽井沢町の旧三笠ホテルと美浜町ゆかりの実業家・山本家の繋がりに着目した「美浜と軽井沢の不思議なご縁」を全体テーマとして開講した(第1回・第2回・第4回)。 ・第1回・第2回は、外部の専門家を招聘した。 ・第6回は、国吉城と同時代の城をテーマとした講座を開講した。 ・第5回を除き、毎回募集定員(通常30人、ペーパークラフト3組)を上回り、受講者数も前年度(596人)を大きく上回った。							
		みはま歴史講座(6-2-7)	年間を通じて、座学・歴史体験、現地探訪などを組み合わせた「みはま歴史講座」を開催する。また、てYouTubeによる配信も行う。	みはま歴史講座 ・第1回:古代若狭の海辺の景観Ⅱ(9/1、47人) ・第2回:古代の若狭・越前と交通路(10/12、43人) ・第3回:北前船船主集落を歩く～早瀬・久々子～(地域探訪) (11/17、25人) ・第4回:若狭の王の舞と越前の獅子渡り(12/3、38人) ・第5回:用具から見る人と自然の関わり～三方五湖編～(2/2、25人) ・第6回:日本遺産「北前船ストーリー」と地域の活性化・事例紹介 ※ふでやま講座共催。北西郷公民館で実施。 (2/22、55人) ※累計参加者 233人	みはま歴史講座 ・講座は、日本遺産認定記念講座(第6回)を含む計6回実施し、前年度(157人)を上回るの参加があった。							

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		6・3 文化財の活用と情報発信	○地域愛学習(6-2-4) 祭礼等の伝統文化や地域の生活文化を後世に継承するとともに、町内小学校の子どもたちに文化の重要性を再認識してもらい、郷土みはまへの愛着と誇りを育む。 祭礼学習については、王の舞研究の第一人者であり旧弥美小学校において長年祭礼学習に取り組んでこられた橋本祐之氏を伝統文化継承アドバイザーに委嘱し、本事業推進の中核とする。 ○歴史文化館の運営(6-3-2) 企画展等を開催し、歴史講座とも連携した展示を行う。また、歴史文化館を活用するため、文化遺産カードの一般配布等を行う。 歴史文化館や文化財資料を活かして、愛好者や地域住民、各種団体・学校の学習の場として活用を図る。 ○若狭国吉城歴史資料館の運営と地域との連携(6-3-3) 国吉城と佐柿の歴史的町並み、美浜町の戦国史や幕末・近代史等をテーマにした年4回の企画展・トピックス展を開催するほか、『資料館だより』を発行してPRに努め、各種イベントにも協力(資料館無料公開など)して、「いつ来ても何かが新しい資料館」を心掛ける。 資料館運営補助として、地元佐柿区民を国吉与力衆として館運営に協力してもらう。	○地域愛学習 ・4/26、祭礼学習授業(美浜中央小学校5・6年生、40名) ・5/1、弥美神社祭礼見学(美浜中央小学校5・6年生、15名) ・9/19、千歯抜き脱穀体験(美浜西小学校5年生) ・9/19、歴史文化館民具見学(美浜中央小学校3年生、28名) ・2/20、歴史文化館民具見学(美浜西小学校3年生、20名) ・3/5、歴史文化館民具見学(美浜東小学校、15名) ○歴史文化館の運営 ・企画展:2回 第15回企画展『美浜に残る北前船の波跡 その言』 第16回企画展『美浜に残る北前船の波跡 その忒』 ・文化遺産カード計43種類の一般配布を継続 ・『歴史だより』を発行:3回(第26号～第28号) ・YouTubeチャンネル、Facebook等のSNSで動画や記事を配信 ・R6年度展示室見学者数 608人 (開館以来累計5,634人) ・R6年度施設(耳公民館併用)利用者数 2,899人 (開館以来累計25,890人) ○若狭国吉城歴史資料館の運営と地域との連携 ・企画展・トピックス展:4回 春季・夏季連続企画展『美浜と軽井沢の不思議なご縁～旧三笠ホテルと美浜の実業家・山本家～』 秋季企画展『城と文学～紫式部は来なかったけど…～』 冬季トピックス展『城コレ2025～お城や武将由来のキャラクターたち～』 ・『資料館だより難攻不落』発行:5回(第38号～第42号) ・国吉城まつりの開催協力(来場者:延べ1,338人) ・ナイトミュージアムの開催 ・地元佐柿区との連携(国吉与力衆(施設管理委託)) ・国吉城まつりの開催(地元佐柿区主催に協力) ・令和6年度入館者数:11,585人(団体39件) ・開館以来の入館者数累計113,195人	○地域愛学習 ・各小学校において、地域の伝統文化や祭礼、地方文化や行事に興味と関心を引いてもらうための学習を進めることができた。 ○歴史文化館の運営 ・展示室への年間見学者数が608人となり、前年度を1割ほど上回った。 ○若狭国吉城歴史資料館の運営と地域との連携 ・過去最高数である前年度の来館者数12,397人(団体44件)を超えることができなかったが、ほぼ例年並みの1万1千人台は維持できた。 ・北陸新幹線敦賀延伸の影響とみられる関東からの来館者は増加傾向の一方、大河『どうする家康』放映による徳川家康ゆかりの地を訪問する観光客の減少(大河ゆかりの地は、概ね放映終了後はどこも前年度より観光客数が減少する)と、冬季の大雪による影響が大きかったとみられる。	A	A	A	A	A	A	45

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
7 人権尊重への取り組み	7 人権学習・啓発の推進	○保育・学校教育における人権教育の充実(7-1-1) 各保育園や学校において、校内人権研修会や人権同和教育に関する公開授業の開催など、自主的または主体的研究及び創意工夫をした人権教育に積極的に取組む。	○保育・学校教育における人権教育の充実 ・人権尊重の精神に基づき、全職員の共通理解のもとに実践を推進 校内人権研修会の開催 ・人権同和教育に関する公開授業の開催	○保育・学校教育における人権教育の充実 ・人権教育を柱として、様々な教育活動を進めることができた。								46
		○美浜町人権教育研究会を中心とした研究実践(7-1-2) 美浜町人権教育研究会を中心に、児童生徒等の指導の充実を図り、各種教育課題を視野に入れた、保育園、小学校及び中学校の発達段階に即した研究実践を実施する。	○美浜町人権教育研究会を中心とした研究実践 ・人権教育研究会 保育園、小学校、中学校のそれぞれの発達段階に応じた実践・研究(保育園部会・学年部会・養護教諭部会・生活指導部会) 保小中の連携 研究紀要の発行(年1回発行、R6:第54号)	○美浜町人権教育研究会を中心とした研究実践 ・保育園、小学校、中学校のそれぞれの発達段階に応じたテーマを設定し、研究を実践することができた。 ・不登校や発達障害等の今日的教育課題に対して、共通理解を図りながら対応することができた。 ・保・小・中が縦横の繋がりを意識した活動をすることができた。 ・年度末に1年間の研究成果をまとめた研究紀要を発刊することがきた。								
		○学校における講演会等を通じた人権学習の充実(7-1-3) 各学校で人権問題等に係る講演会や体験学習などを実施することで、人権学習の充実を図る。	○学校における講演会等を通じた人権学習の充実 ・人権週間を中心に、各小中学校で講演会等を開催 美浜中(校内人権作文発表会) 美浜東小(命と夢のコンサート 講師:弓削田健介氏〔合唱曲作家〕) 美浜西小(人権講演会 講師:武内昭子氏〔福井工業大学〕) 美浜中央小(人権集会)	○学校における講演会等を通じた人権学習の充実 ・すべての学校で人権に関する講演会等を開催することができた。 ・児童生徒や保護者の感想から、毎年取り組んでいる人権学習の成果が出ていると感じており、今後も継続実施していく必要がある。	B	B	B	A	A	A		
		○美浜町人権尊重啓発協議会の活動による人権意識の向上(7-1-4) 作品公募・意識調査部会、広報ふれあい部会、啓発資料・人権協コーナー部会、町民人権講座部会、人権のつどい部会、推進団体学習部会の人権協6部会による人権学習・啓発の推進	○美浜町人権尊重啓発協議会の活動による人権意識の向上 ・作品公募・意識調査部会 人権作品の公募、審査、表彰 一般の部 短い手紙 応募数 R6:31点(R5:31点)(R4:33点) 写真 応募数 R6:45点(R5:46点)(R4:17点) ・広報ふれあい部会 広報ふれあいの発行 年間3回発行、全戸配布 ・啓発資料・人権協コーナー部会 『身近なことから考えよう』をテーマとした学習資料 を発行、全戸配布 ・町民人権講座部会 町民人権講座 年間6回開催 全6回 R6:計581人参加(R5:計683人参加) ・人権のつどい部会 人権のつどい開催 R6:260人参加(R5:334人参加) ・推進団体学習部会 集落、団体等における人権学習会の開催 R6:32集落、2団体、2企業が開催 R5:29集落、1団体、2企業が開催 ※人権講座 感想抜粋 ・「安心安全な場所と時間を確保する」ことによって、人は自分の中にあるよい種を芽生えさせることができる。それを実感できるように、自分の行動を改めなければならないと強く思った。 ・今何もできないけれど、知ること、これからできることがあると思う。 ・グローバルのとらえ方、多様性の考え方を実際経験してこられた軸を持ってお話してくださり、腑に落ちた。大きな心を持ちたい。	○美浜町人権尊重啓発協議会の活動による人権意識の向上 ・人権協の6部会の活動が、計画通りに取り組めた。 ・推進委員の積極的な声掛けやチラシ等の工夫により、人権作品の一般公募(写真)ではR6年度も多くの作品が寄せられた。 ・広報ふれあい、町民人権講座の様子や人権協の活動等について、町民の方々に広報することができた。 ・人権協の推進委員交流会で、町民意識調査の結果について共有し、話し合うことができた。 ・平均、約100人の方々に人権講座に参加していただくことができ、感想からも人権意識の向上に繋がったと感じる。 ・多くの方に人権のつどいに参加していただき、人権について考えていただく機会を提供することができた。 ・過去最高となる32集落で推進団体学習会を開催していただくことができた。集落での学習会が浸透してきていることを感じる。								

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R5			R6			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		7・2 人権擁護の取り組み	○人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進(7-2-1) 町内巡回キャンペーンの実施(人権週間)や人権啓発活動の実施(夏フェスタ美浜、人権のつどい) ○美浜町人権擁護委員、人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進(7-2-2) 人権侵害への対応	○人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・人権擁護委員および人権擁護機関と連携し、人権週間に町内巡回キャンペーンを実施(事業所等に啓発物品を配布 42ヶ所巡回) ・夏フェスタ美浜及び人権のつどいの際に、人権啓発活動を実施し、来場者に啓発物品を配布 ○美浜町人権擁護委員、人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・外部と連携するような人権侵害の事案無し	○人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・人権週間に、3方面に分かれて巡回キャンペーンを実施することができた。より効果的な啓発活動とするために、できるだけ集落内を巡回するようにした。 ・夏フェスタ美浜では、昨年度の反省を生かし、来場者が多く集まる17時から啓発物品の配布を行うことで、より多くの人に啓発活動を実施することができた。 ○美浜町人権擁護委員、人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・人権擁護委員が人権協の人権擁護・啓発部会に所属することで、スムーズな連携ができる体制が整っている。事案が発生した場合には速やかに密接な連携がとれるように継続して取り組んでいく必要がある。	B	B	B	B	B	B	47
		7・3 人権が尊重される社会の実現	○人権尊重のネットワーク強化(7-3-1) 保育園及び学校教育を中心とする美浜町人権教育研究会と社会教育を軸とした美浜町人権尊重啓発協議会が連携し、関係機関や組織とのネットワーク強化を図る。	○人権尊重のネットワーク強化 ・生涯学習推進課に人権研・人権協の事務局を置き、相互の連携を図るとともに、包括支援センター、町P連、庁内関係機関と協力して活動を推進することができた。 町民人権講座の共催(人権研、健康福祉課、町P連、同和会) 啓発活動(人権擁護委員)	○人権尊重のネットワーク強化 ・人権に関する事務局を生涯学習推進課に置くことで、学校教育と社会教育の連携、また、外部機関との連携を図ることができた。	B	B	B	B	B	B	48

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)